

男女共同参画市民意識調査 結果報告書



平成31年3月

蕨市



目 次

【調査の概要】

1	調査目的	2
2	調査の方法	2
3	調査項目	2
4	回収結果	2

【調査結果の概要】

1	意識	
問1	男女平等に関わる言葉の認知	3
問2	各分野の男女平等感	7
問3	男女共同参画社会への関心	9
問4	固定的性別役割分担意識	10
2	家庭生活	
問5	家庭での役割分担	11
問6	家事・子育て・介護に関わる所要時間	12
問7	結婚、家族、離婚についての考え	15
3	地域活動	
問8	女性会長が少ない理由	17
問9	地域活動への参加	18
問10	地域団体の中での性別役割団体意識	19
4	職場	
問11	職場にある男女差別	20
問12	育児介護休業制度の利用	22
問12-1	育児介護休業制度が利用できない理由	23
問13	仕事と生活の調和の実現	24
5	社会参加	
問14	地方自治体への反映	25
問14-1	反映されない理由	26
問15	ポジティブアクションについての考え	28
6	女性の人権	
問16	女性の人権が侵害されていると感じるもの	29
7	女性の活躍の推進	
問17	出産後も就業するために必要なこと	31
問18	職業生活における女性の活躍推進のための情報	32
8	防災	
問19	男女の性別に配慮した対応の必要性	33
問19-1	男女の性別に配慮した対応	34
9	男女共同参画の取組	
問20	男女共同参画に必要なこと	35
問21	男女共同参画事業の認知度	37
10	回答者の属性	38
	(1) 地区	
	(2) 性別	
	(3) 年齢層	
	(4) 職業	
	(5) 同居の家族	
11	自由意見	39

【調査の概要】

1、調査目的

男女共同参画についての意識や実態を把握し、「蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第2次）後期計画」策定の基礎資料とするために実施

2、調査の方法

- (1) 調査対象：住民基本台帳に記録された18歳以上の市民1,000人
- (2) 調査方法：行政連絡員を通じて配布し、調査用紙は郵送で回収
(礼状兼催促状を1回送付)
- (3) 調査期間：平成30年5月29日～6月22日

3、調査項目

- (1) 意識 (2) 家庭生活 (3) 地域活動 (4) 職場 (5) 社会参加
- (6) 女性の人権 (7) 女性の活躍の推進 (8) 防災
- (9) 男女共同参画の取組 (10) 回答者の属性 (11) 自由意見

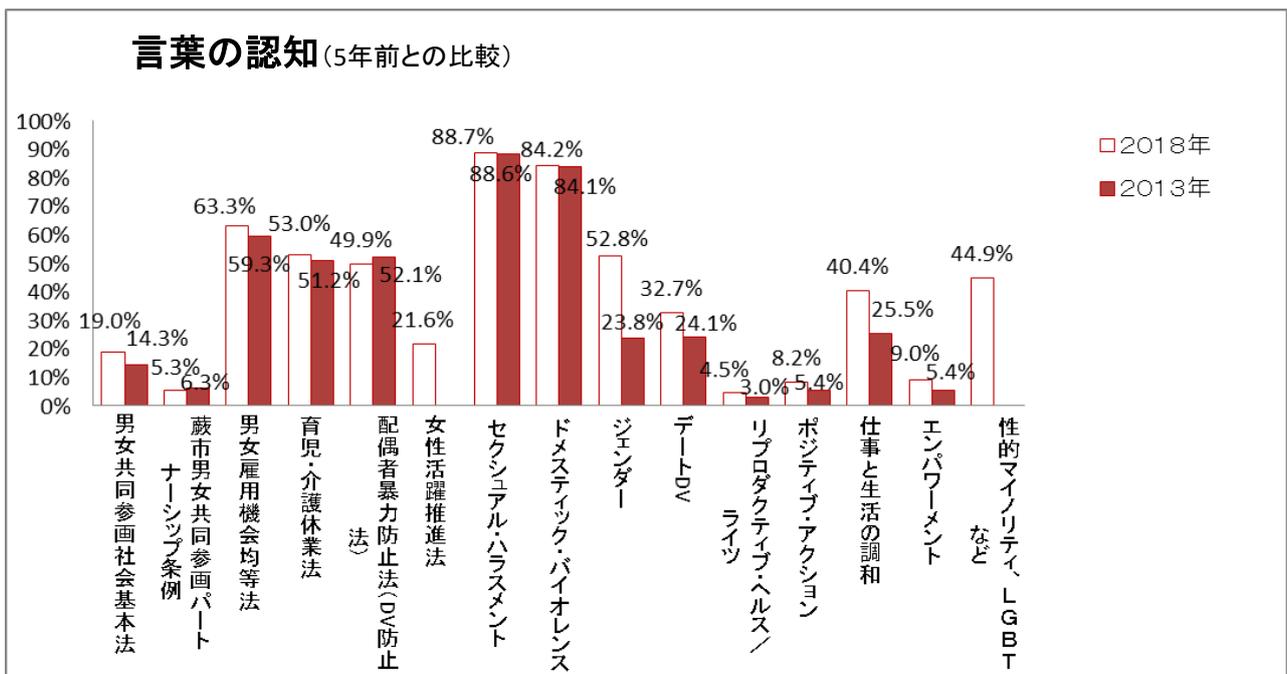
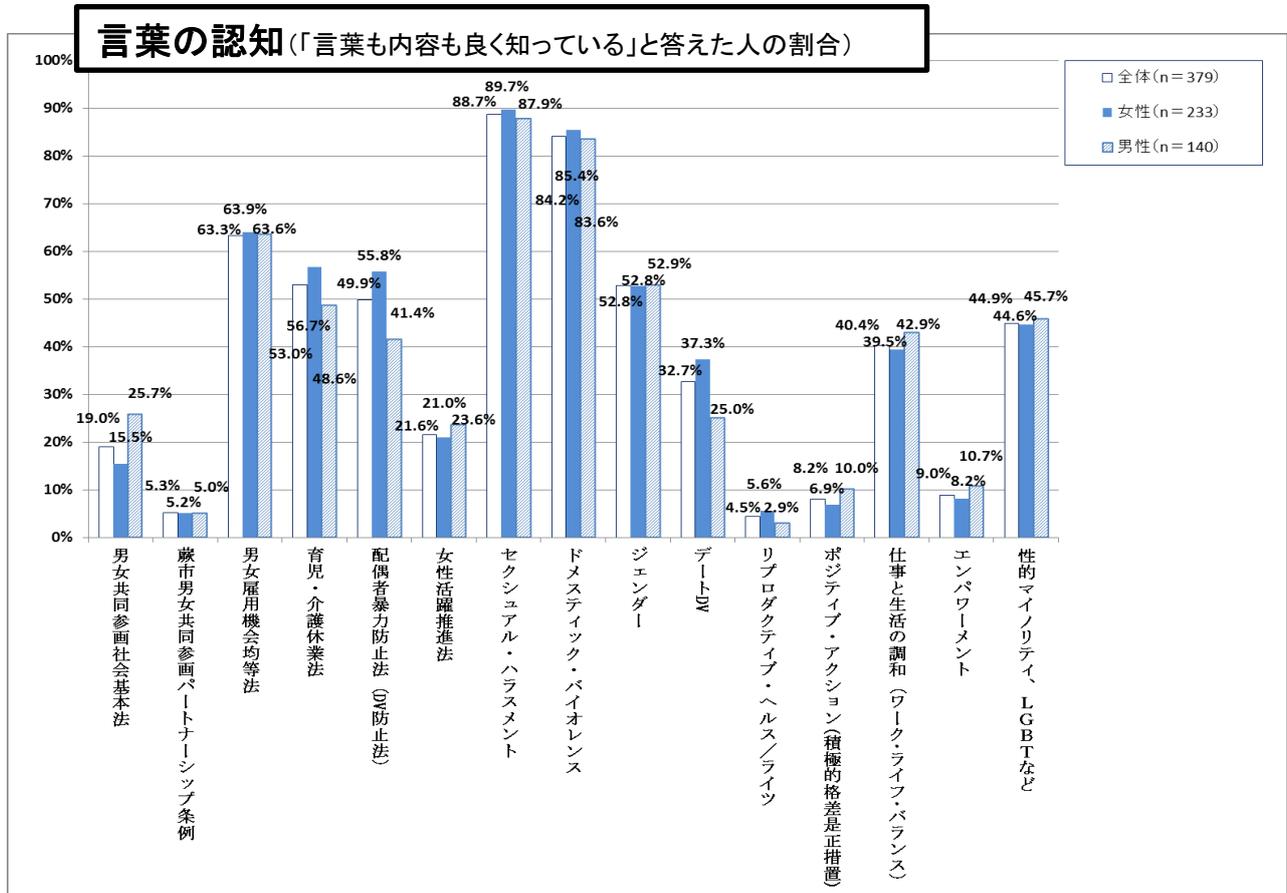
4、回収結果

配布件数	回収件数	回収率
1,000	379	37.9%

【調査結果】

1 意識

問1 あなたは、男女平等社会に向けた取り組みに関わる次のことがらや言葉をご存知ですか。



男女共同参画社会基本法

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	19.0%	15.5%	25.7%
聞いたことがある	42.2%	45.1%	37.9%
知らない	36.4%	37.8%	33.6%
無回答	2.4%	1.7%	2.9%

男女雇用機会均等法

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	63.3%	63.9%	63.6%
聞いたことがある	25.1%	23.6%	27.1%
知らない	9.2%	10.7%	5.7%
無回答	2.4%	1.7%	3.6%

配偶者暴力防止法（DV防止法）

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	49.9%	55.8%	41.4%
聞いたことがある	35.6%	34.3%	37.1%
知らない	12.9%	8.2%	20.0%
無回答	1.6%	1.7%	1.4%

セクシュアル・ハラスメント

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	88.7%	89.7%	87.9%
聞いたことがある	8.4%	8.2%	8.6%
知らない	1.3%	0.9%	1.4%
無回答	1.6%	1.3%	2.1%

蕨市男女共同参画パートナーシップ条例

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	5.3%	5.2%	5.0%
聞いたことがある	29.6%	33.9%	22.9%
知らない	62.8%	58.8%	69.3%
無回答	2.4%	2.1%	2.9%

育児・介護休業法

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	53.0%	56.7%	48.6%
聞いたことがある	36.1%	32.2%	41.4%
知らない	8.4%	8.6%	7.9%
無回答	2.4%	2.6%	2.1%

女性活躍推進法

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	21.6%	21.0%	23.6%
聞いたことがある	41.4%	42.5%	40.7%
知らない	33.2%	32.6%	32.9%
無回答	3.7%	3.9%	2.9%

ドメスティック・バイオレンス

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	84.2%	85.4%	83.6%
聞いたことがある	10.0%	9.0%	11.4%
知らない	4.0%	3.9%	3.6%
無回答	1.8%	1.7%	1.4%

ジェンダー

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	52.8%	52.8%	52.9%
聞いたことがある	20.8%	20.6%	22.1%
知らない	24.3%	24.9%	22.1%
無回答	2.1%	1.7%	2.9%

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康・権利)

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	4.5%	5.6%	2.9%
聞いたことがある	16.6%	17.2%	15.7%
知らない	76.8%	75.5%	78.6%
無回答	2.1%	1.7%	2.9%

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	40.4%	39.5%	42.9%
聞いたことがある	29.3%	30.9%	25.7%
知らない	28.0%	27.9%	27.9%
無回答	2.4%	1.7%	3.6%

性的マイノリティ、LGBTなど

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	44.9%	44.6%	45.7%
聞いたことがある	24.0%	21.5%	28.6%
知らない	28.8%	32.2%	22.1%
無回答	2.4%	1.7%	3.6%

デートDV

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	32.7%	37.3%	25.0%
聞いたことがある	18.7%	17.2%	22.1%
知らない	46.7%	44.2%	50.0%
無回答	1.8%	1.3%	2.9%

ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	8.2%	6.9%	10.0%
聞いたことがある	19.5%	21.0%	17.1%
知らない	69.4%	70.0%	68.6%
無回答	2.9%	2.1%	4.3%

エンパワーメント

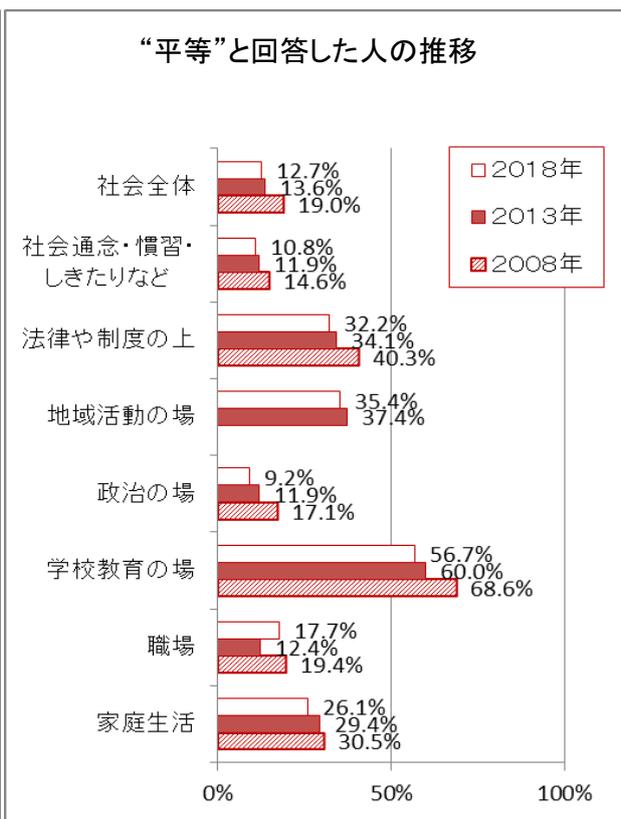
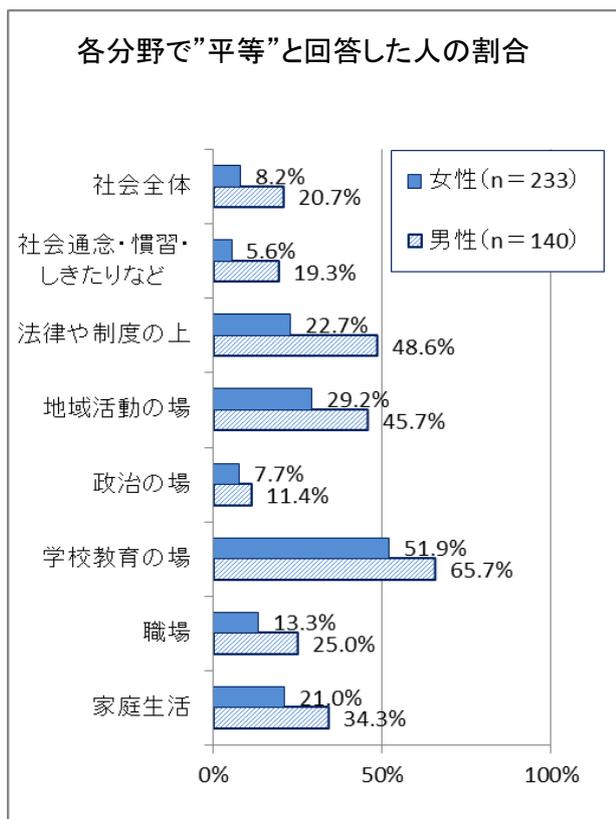
	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
言葉も内容も知っている	9.0%	8.2%	10.7%
聞いたことがある	15.6%	12.9%	20.0%
知らない	72.3%	76.8%	64.3%
無回答	3.2%	2.1%	5.0%

男女共同参画に関する言葉について、“言葉も内容も知っている”と最も多く回答があった言葉は「セクシュアル・ハラスメント」で全体で88.7%でした。次いで、「ドメスティック・バイオレンス」が84.2%、「男女雇用機会均等法」が63.3%となっています。また、“知らない”との回答は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」が76.8%、「エンパワーメント」が72.3%、「ポジティブ・アクション」が69.4%となっています。

男女別で見ると、「配偶者暴力防止法（DV防止法）」は女性の認知が高く、“言葉の意味も内容も知っている”は55.8%で、男性の41.4%よりも14.4ポイント高い結果となりました。

2013年に行った「市民意識調査」結果と比較してみると、「ジェンダー」が23.8%から52.8%と、29.0ポイント上昇しました。

問2 あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。



家庭生活

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	8.2%	12.0%	2.1%
どちらかといえば男性	47.2%	49.8%	42.9%
平等	26.1%	21.0%	34.3%
どちらかといえば女性	8.7%	7.7%	10.7%
女性の方が非常に優遇	1.6%	1.3%	2.1%
分からない	5.8%	6.4%	5.0%

職場

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	16.6%	22.3%	7.1%
どちらかといえば男性	49.3%	48.5%	52.9%
平等	17.7%	13.3%	25.0%
どちらかといえば女性	5.8%	5.2%	7.1%
女性の方が非常に優遇	1.1%	1.3%	0.0%
分からない	7.4%	7.7%	5.7%

学校教育の場

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	2.9%	3.9%	0.7%
どちらかといえば男性	14.5%	18.5%	8.6%
平等	56.7%	51.9%	65.7%
どちらかといえば女性	2.4%	1.7%	2.9%
女性の方が非常に優遇	0.3%	0.4%	0.0%
分からない	20.6%	21.0%	20.0%

政治の場

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	39.8%	48.1%	26.4%
どちらかといえば男性	40.1%	35.2%	49.3%
平等	9.2%	7.7%	11.4%
どちらかといえば女性	1.1%	0.4%	1.4%
女性の方が非常に優遇	0.5%	0.9%	0.0%
分からない	7.1%	6.4%	8.6%

地域活動の場

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	6.1%	5.6%	6.4%
どちらかといえば男性	30.6%	35.2%	23.6%
平等	35.4%	29.2%	45.7%
どちらかといえば女性	7.7%	5.2%	11.4%
女性の方が非常に優遇	0.3%	0.4%	0.0%
分からない	17.9%	22.7%	10.7%

法律や制度の上

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	11.9%	16.3%	4.3%
どちらかといえば男性	32.7%	35.6%	29.3%
平等	32.2%	22.7%	48.6%
どちらかといえば女性	6.1%	3.9%	8.6%
女性の方が非常に優遇	0.5%	0.9%	0.0%
分からない	14.2%	18.5%	7.1%

社会通念・慣習・しきたりなど

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	23.7%	30.0%	12.9%
どちらかといえば男性	53.0%	51.9%	57.1%
平等	10.8%	5.6%	19.3%
どちらかといえば女性	2.6%	1.7%	2.9%
女性の方が非常に優遇	0.8%	0.9%	0.7%
分からない	7.1%	8.6%	5.0%

社会全体

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男性の方が非常に優遇	12.1%	15.5%	6.4%
どちらかといえば男性	62.8%	63.5%	63.6%
平等	12.7%	8.2%	20.7%
どちらかといえば女性	2.9%	1.7%	2.9%
女性の方が非常に優遇	0.5%	0.4%	0.7%
分からない	7.7%	9.9%	4.3%

各分野で男女平等になっているか聞いたところ、“平等”と答えた人の割合が最も高くなったところは「学校教育の場」で56.7%、次いで「地域活動の場」で35.4%となっています。

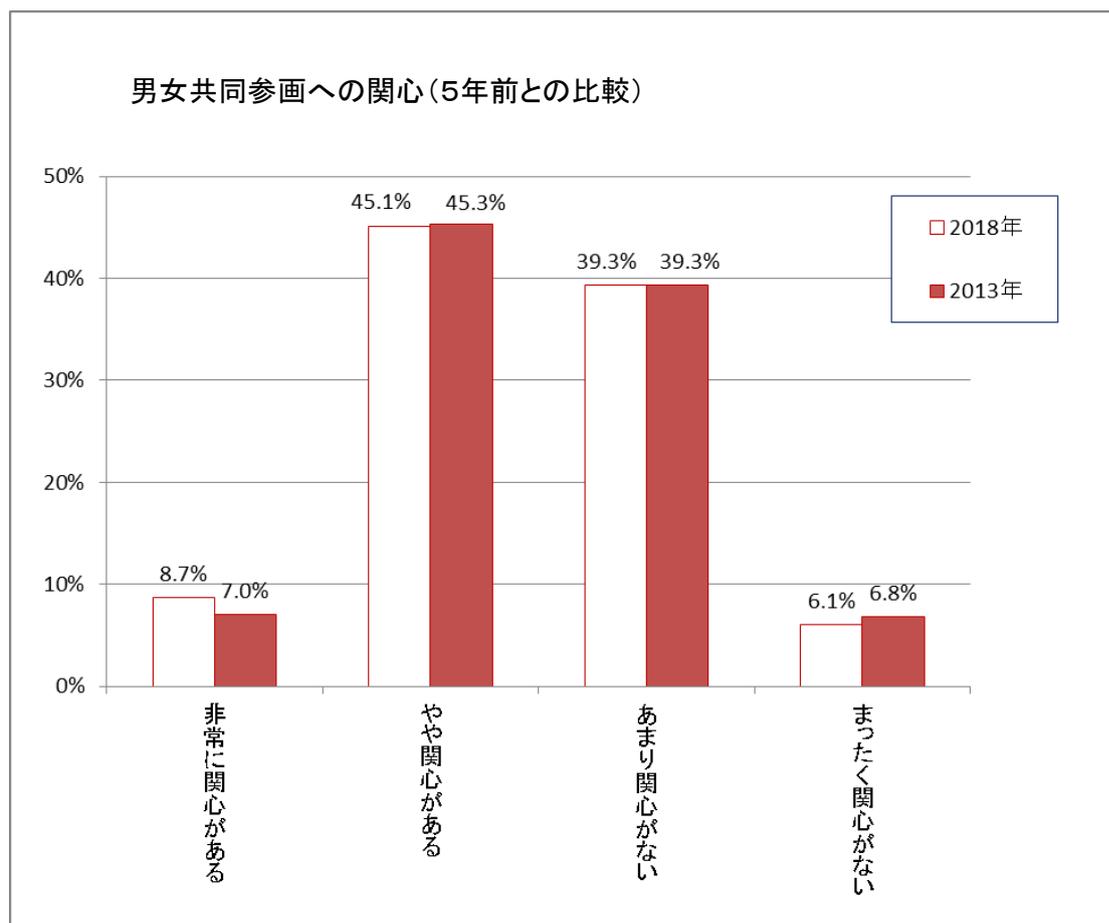
また、“男性の方が非常に優遇されている”は「政治の場」で39.8%、「社会通念・慣習しきたりなど」が23.7%、「職場」が16.6%でした。

“男性の方が非常に優遇されている”と“どちらかといえば男性のほうが優遇されている”を合計した割合は、「政治の場」が最も高く79.9%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が76.7%、「社会全体」が74.9%となっています。

“平等”と回答した人の割合は、どの分野も男性の方が高い割合となっていますが、特に「法律や制度の上」の分野では、男性では48.6%が“平等”と答えているのに、女性は22.7%にとどまり、その差は25.9ポイントあります。同様に「地域活動の場」でも男性は45.7%が“平等”と答えていますが、女性では29.2%でその差は16.5ポイントとなっています。

2008年、2013年と今回の調査を比較してみると、全体的に各分野の平等感は、下回っていますが、「職場」では、2013年の12.4%から5.3ポイント高い17.7%となりました。

問3 あなたは男女共同参画の推進について、どの程度関心がありますか。



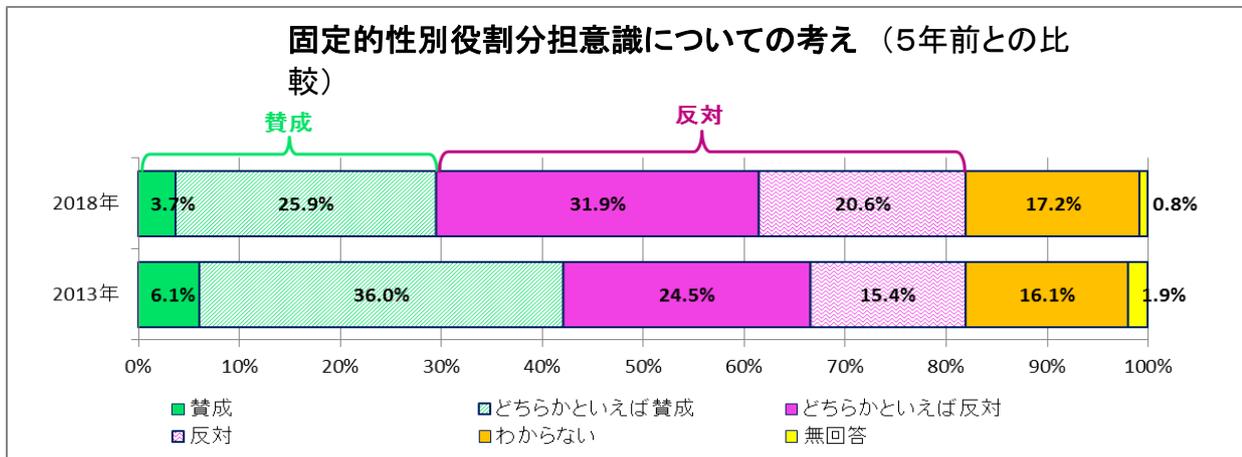
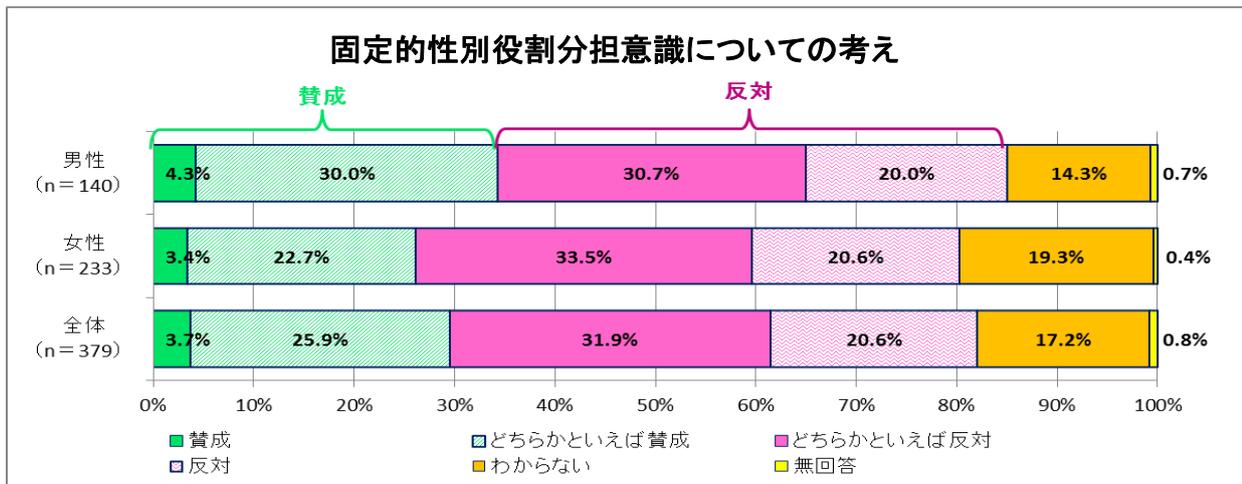
	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
非常に興味がある	8.7%	7.3%	10.7%
やや興味がある	45.1%	44.6%	46.4%
あまり関心がない	39.3%	41.2%	36.4%
まったく関心がない	6.1%	6.4%	5.7%
無回答	0.8%	0.4%	0.7%

男女共同参画への関心は、“非常に興味がある”が8.7%、“やや興味がある”が45.1%、“あまり関心がない”が39.3%、“まったく関心がない”が6.1%となっています。

男女別では、“非常に興味がある”が女性は7.3%、男性は10.7%で、“やや興味がある”を加えると女性では51.9%、男性で57.1%が関心を寄せています。

2013年の調査と比較すると、“非常に興味がある”が7.0%から8.7%と1.7ポイント増加し、“まったく関心がない”が6.8%から6.1%と0.7ポイント減少しました。

問4「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたはこのことについてどのように思いますか？（〇は1つ）



	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
賛成	3.7%	3.4%	4.3%
どちらかといえば賛成	25.9%	22.7%	30.0%
どちらかといえば反対	31.9%	33.5%	30.7%
反対	20.6%	20.6%	20.0%
わからない	17.2%	19.3%	14.3%
無回答	0.8%	0.4%	0.7%

「夫は仕事、妻は家庭」という固定的性別役割分担意識について、「賛成」と回答したのは3.7%、「どちらかといえば賛成」が25.9%、「反対」は20.6%、「どちらかといえば反対」が31.9%となっています。

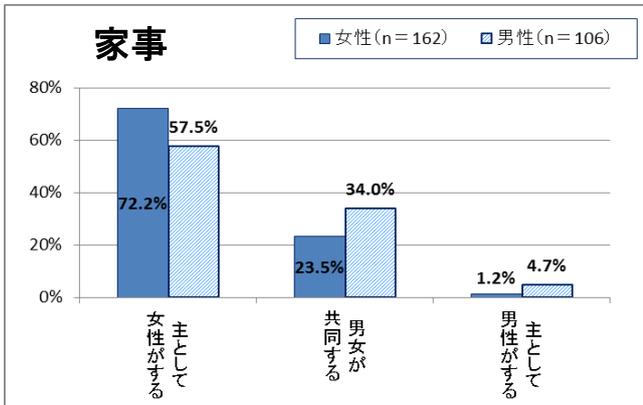
男女別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を加えると、男性では34.3%が、女性では26.1%が賛成となっています。また、「反対」と「どちらかといえば反対」を加えると、女性では54.1%が、男性では50.7%が反対となっています。

この結果から、固定的性別分担意識は、男性の方が賛成し、女性の方が反対する傾向にあることがわかります。

2013年の調査と比較すると、女性の「賛成」が5.6%から3.4%と2.2ポイント減少し、男性の「賛成」が6.5%から4.3%と2.2ポイント減少していました。

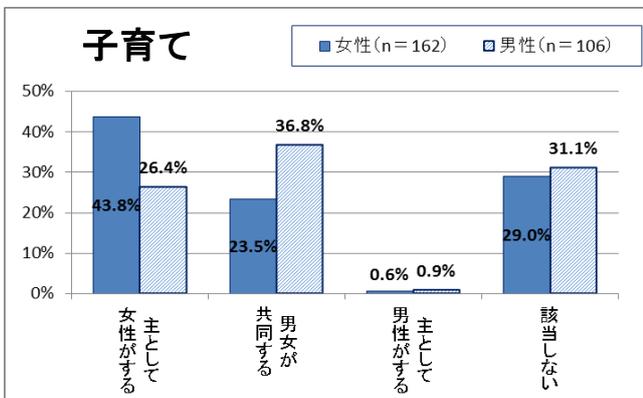
2 家庭生活

問5 あなたの家庭では、次のような分野でどのように分担していますか。(〇は1つ)



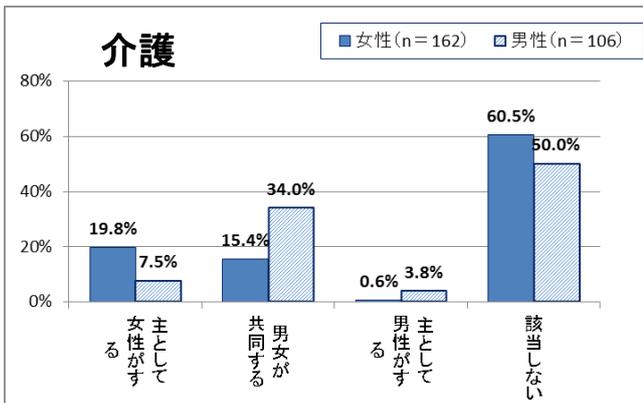
a. 家事

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
主として女性がする	65.9%	72.2%	57.5%
男女が共同する	27.5%	23.5%	34.0%
主として男性がする	2.6%	1.2%	47.0%
該当しない	—	—	—
無回答	4.0%	3.1%	3.8%



b. 子育て

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
主として女性がする	36.3%	43.8%	26.4%
男女が共同する	28.6%	23.5%	36.8%
主として男性がする	0.7%	0.6%	0.9%
該当しない	30.0%	29.0%	31.1%
無回答	4.4%	3.1%	4.7%



c. 介護

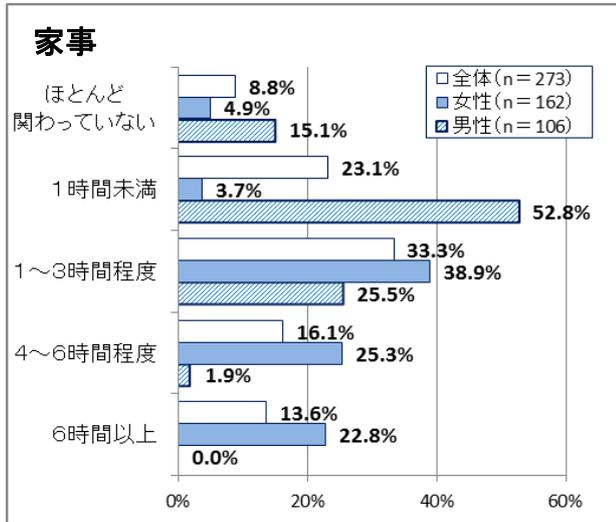
	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
主として女性がする	15.0%	19.8%	7.5%
男女が共同する	22.3%	15.4%	34.0%
主として男性がする	1.8%	0.6%	3.8%
該当しない	56.0%	60.5%	50.0%
無回答	4.8%	3.7%	4.7%

家庭での分担については、「主として女性がする」が“家事”が65.9%で最も多く、次いで“子育て”が36.3%、“介護”が15.0%となりました。「男女が共同する」は、“子育て”が28.6%で最も多く、次いで“家事”が27.5%、“介護”が22.3%でした。

「男女が共同する」を男女別でみると、“家事”が男性34.0%で女性が23.5%、“子育て”が男性36.8%で女性が23.5%、“介護”が男性34.0%で女性が15.4%となり、すべて男性の方が共同して行っている意識が高いことが分かります。

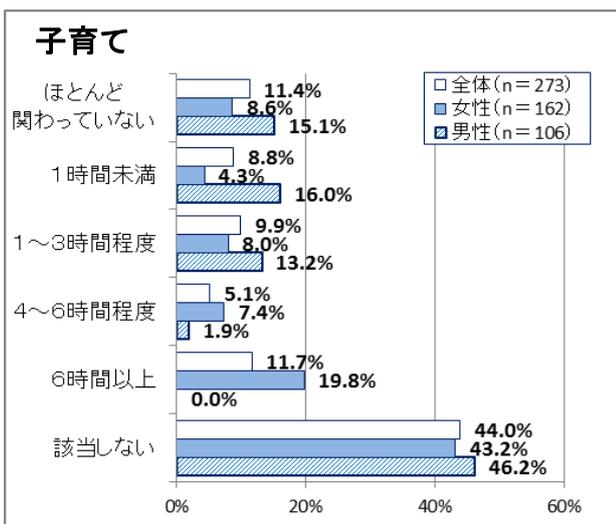
問6 あなたが家事・子育て・介護に関わる時間は1日平均どれくらいですか。
(○は1つ)

【平日】



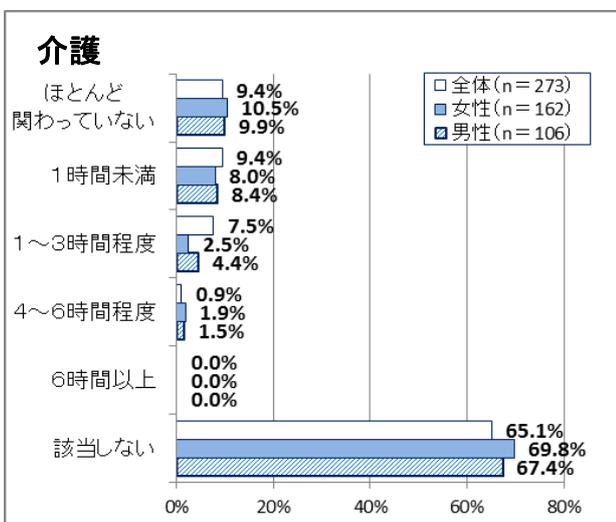
a. 家事

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	8.8%	4.9%	15.1%
1時間未満	23.1%	3.7%	52.8%
1～3時間未満	33.3%	38.9%	25.5%
4～6時間未満	16.1%	25.3%	1.9%
6時間以上	13.6%	22.8%	0.0%
該当しない	—	—	—
無回答	5.1%	4.3%	4.7%



b. 子育て

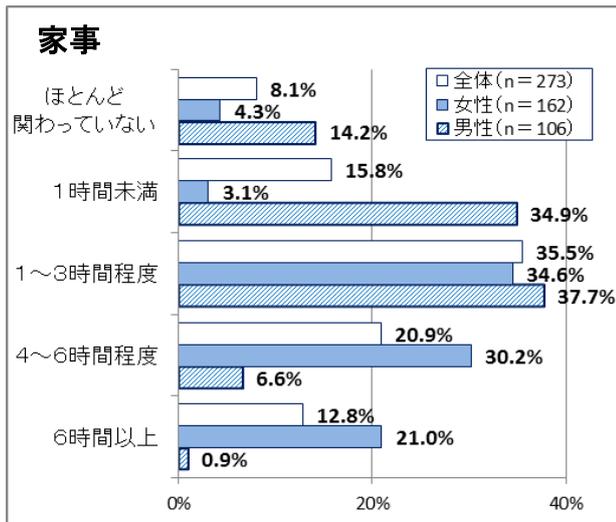
	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	11.4%	8.6%	15.1%
1時間未満	8.8%	4.3%	16.0%
1～3時間未満	9.9%	8.0%	13.2%
4～6時間未満	5.1%	7.4%	1.9%
6時間以上	11.7%	19.8%	0.0%
該当しない	44.0%	43.2%	46.2%
無回答	9.2%	8.6%	7.5%



c. 介護

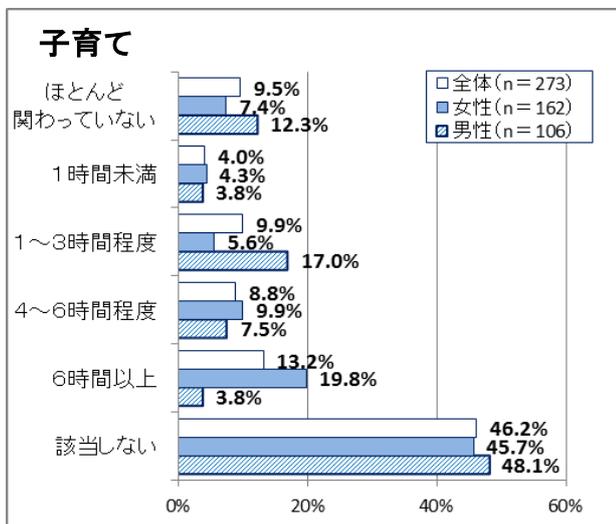
	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	9.9%	10.5%	9.4%
1時間未満	8.4%	8.0%	9.4%
1～3時間未満	4.4%	2.5%	7.5%
4～6時間未満	1.5%	1.9%	0.9%
6時間以上	0.0%	0.0%	0.0%
該当しない	67.4%	69.8%	65.1%
無回答	8.4%	7.4%	7.5%

【休日】



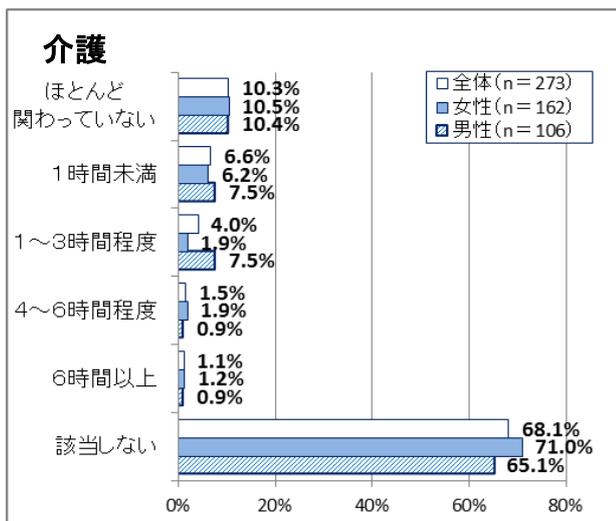
a. 家事

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	8.1%	4.3%	14.2%
1時間未満	15.8%	3.1%	34.9%
1～3時間未満	35.5%	34.6%	37.7%
4～6時間未満	20.9%	30.2%	6.6%
6時間以上	12.8%	21.0%	0.9%
該当しない	—	—	—
無回答	7.0%	6.8%	5.7%



b. 子育て

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	9.5%	7.4%	12.3%
1時間未満	4.0%	4.3%	3.8%
1～3時間未満	9.9%	5.6%	17.0%
4～6時間未満	87.8%	9.9%	7.5%
6時間以上	13.2%	19.8%	3.8%
該当しない	46.2%	45.7%	48.1%
無回答	8.4%	7.4%	7.5%



c. 介護

	全体 (n=273)	女性 (n=162)	男性 (n=106)
ほとんど関わっていない	10.3%	10.5%	10.4%
1時間未満	6.6%	6.2%	7.5%
1～3時間未満	4.0%	1.9%	7.5%
4～6時間未満	1.5%	1.9%	0.9%
6時間以上	1.1%	1.2%	0.9%
該当しない	68.1%	71.0%	65.1%
無回答	8.4%	7.4%	7.5%

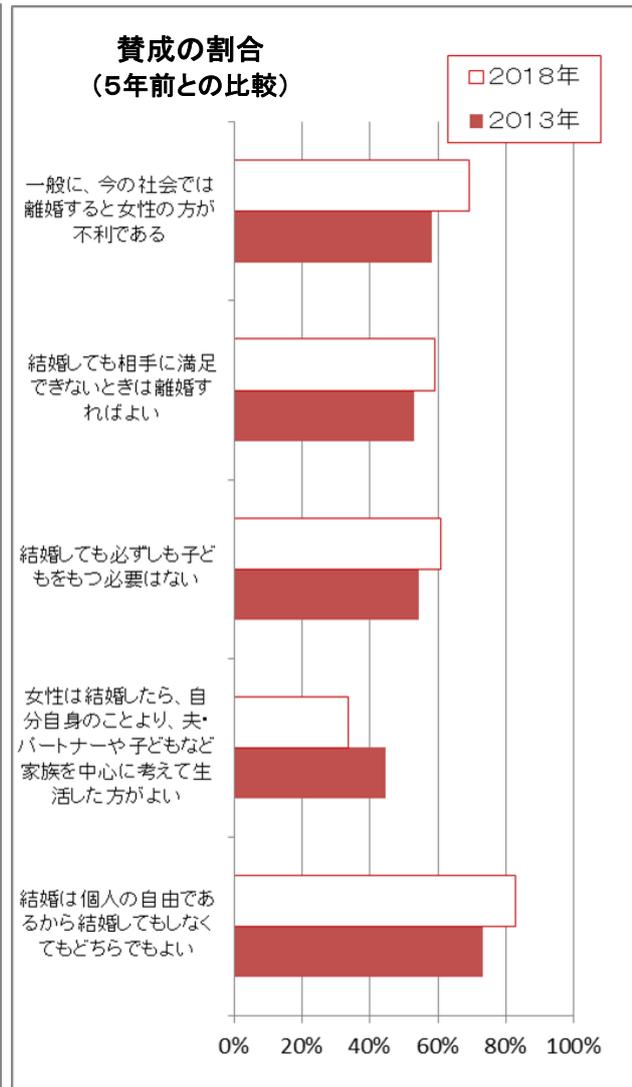
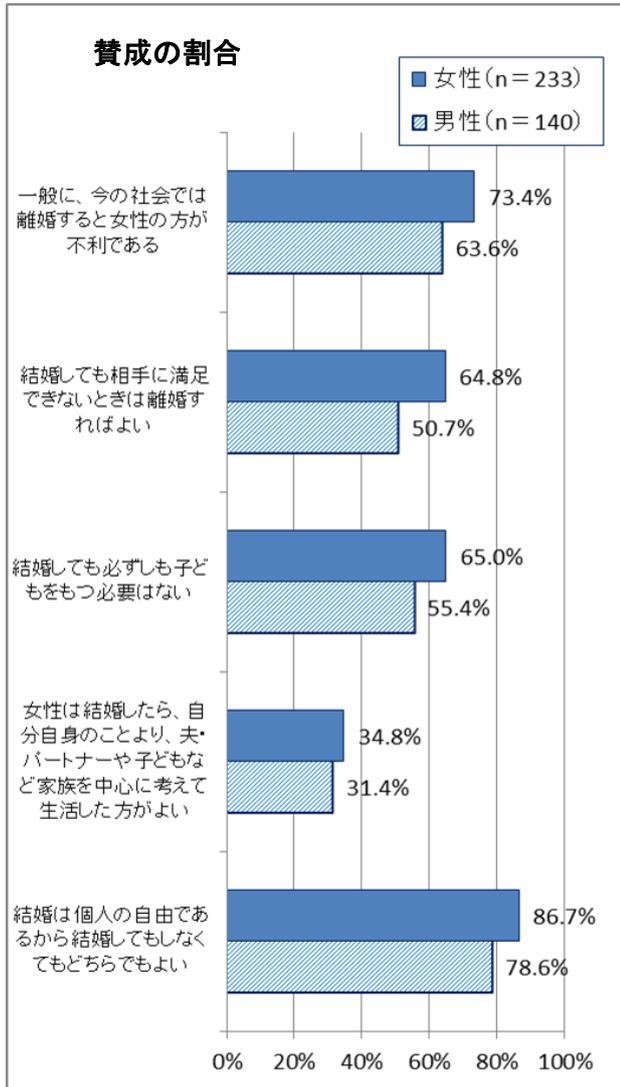
家事・子育て・介護に関わる時間を平日と休日に分けて聞いたところ、平日の“家事”は「1～3時間程度」が33.3%と最も多く、次いで「1時間未満」が23.1%となっています。平日の“子育て”は「6時間以上」が11.7%と最も多く、次いで「ほとんど関わっていない」が11.4%でした。平日の“介護”は「ほとんど関わっていない」が9.9%と最も多く、次いで「1時間未満」が8.4%でした。

男女別でみると“家事”で最も多いのは女性が「1～3時間程度」で38.9%、男性が「1時間未満」で52.8%、“子育て”で最も多いのは女性が「6時間以上」で19.8%、男性が「1時間未満」で16.0%、“介護”で最も多いのは男女ともに「ほとんど関わっていない」でした。

一方、休日の“家事”を男女別にみると、最も多いのは男女ともに「1～3時間程度」で女性が34.6%、男性が37.7%でした。“子育て”で最も多いのは女性が「6時間以上」で19.8%、男性が「1～3時間程度」で17.0%、“介護”で最も多いのは男女ともに「ほとんど関わっていない」でした。

このことから、“家事”は休日になると男性に関わる時間が増えることで、女性に関わる時間が減少していますが、“子育て”は休日になると男性に関わる時間は増えているものの、女性に関わる時間は平日と変わらないことが分かりました。

問7 結婚、家庭、離婚についてあなたのご意見をお伺いします。次の中からあなたの考えに最も近いところに○をつけてください。(○は1つ)



a. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	57.0%	61.4%	50.7%
どちらかといえばそう思う	25.9%	25.3%	27.9%
どちらかといえばそう思わない	7.4%	4.7%	11.4%
そう思わない	4.7%	3.4%	6.4%
わからない	2.6%	2.6%	2.1%
無回答	2.4%	2.6%	1.4%

b. 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫・パートナーや子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	5.5%	5.2%	5.7%
どちらかといえばそう思う	28.0%	29.6%	25.7%
どちらかといえばそう思わない	22.4%	21.0%	25.0%
そう思わない	36.1%	37.3%	34.3%
わからない	5.8%	4.7%	7.1%
無回答	2.1%	2.1%	2.1%

c. 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
そう思う	37.2%	38.5%	36.7%
どちらかといえばそう思う	23.5%	26.5%	18.7%
どちらかといえばそう思わない	11.6%	9.4%	14.4%
そう思わない	16.9%	14.1%	21.6%
わからない	8.4%	9.4%	6.5%
無回答	2.4%	2.1%	2.2%

d. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
そう思う	25.6%	28.8%	21.4%
どちらかといえばそう思う	33.5%	36.1%	29.3%
どちらかといえばそう思わない	16.6%	13.3%	22.1%
そう思わない	10.0%	8.6%	12.1%
わからない	12.1%	11.6%	12.9%
無回答	2.1%	1.7%	2.1%

e. 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
そう思う	35.6%	44.6%	20.7%
どちらかといえばそう思う	33.5%	28.8%	42.9%
どちらかといえばそう思わない	8.7%	6.4%	11.4%
そう思わない	11.9%	10.7%	14.3%
わからない	8.2%	7.7%	8.6%
無回答	2.1%	1.7%	2.1%

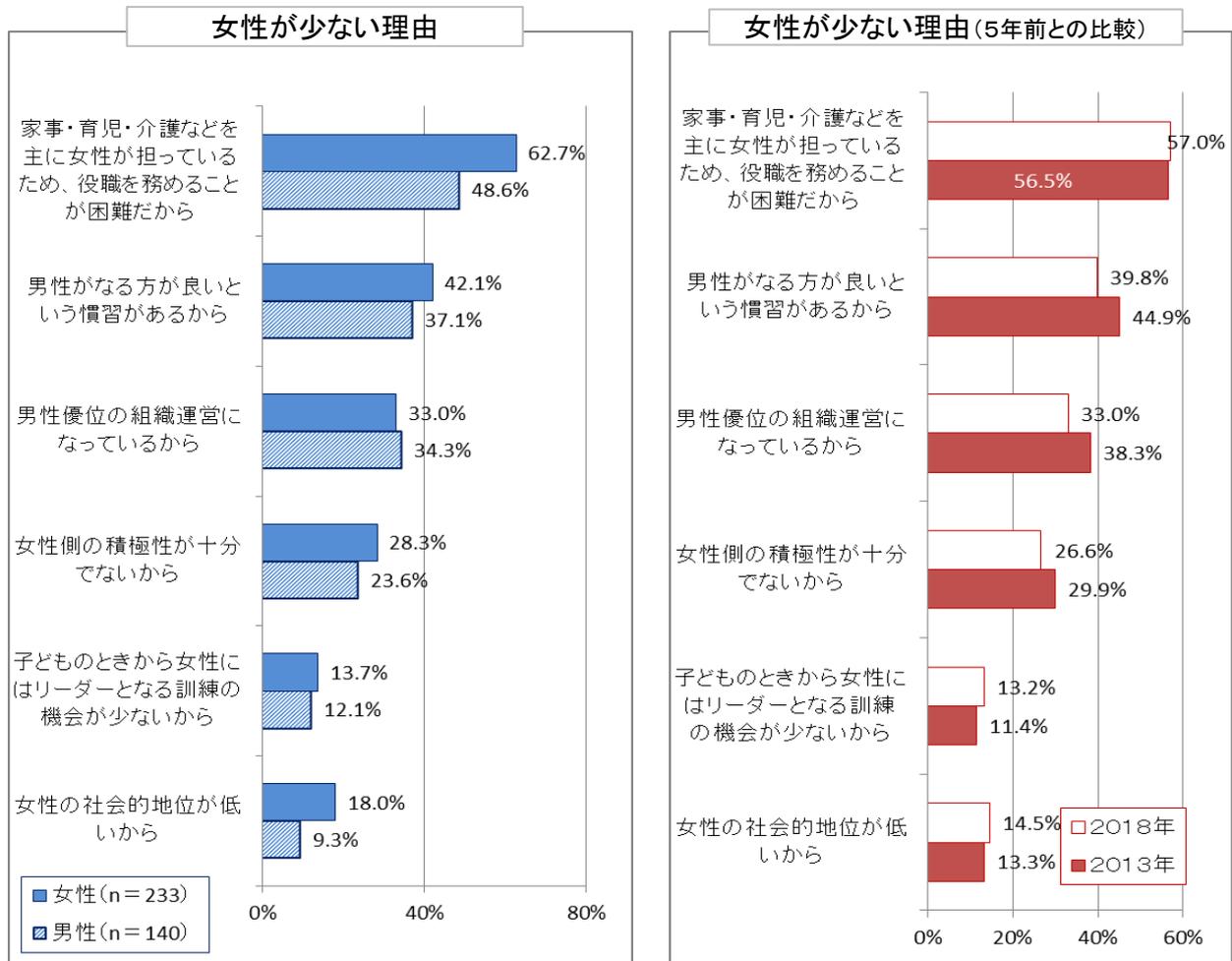
結婚観や家庭観について聞いたところ、“結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい”という考えに「そう思う」と答えた人が46.3%と最も多く、次いで“結婚しても必ずしも子どもを持つ必要がない”が33.6%、“一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である”が30.6%と続きます。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足した賛成の割合を男女別で見ると、総じて女性の方がポイントが高くなっており、中でも“一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利になる”は女性の69.5%に対し、男性は40.3%が賛成で29.2ポイントの差がありました。

2013年の調査と比較すると、すべての項目において賛成の割合が5年前より上回っており、中でも“結婚しても必ずしも子どもを持つ必要がない”が45.7%から54.4%と8.7ポイント上昇し、“結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい”が46.7%から53%と6.3ポイント上昇しました。

3 地域活動

問8 町会長やPTA会長など「～長」という役職に女性が少ない傾向にあります。あなたはどのような理由からだと思いますか（〇は当てはまるものすべて）



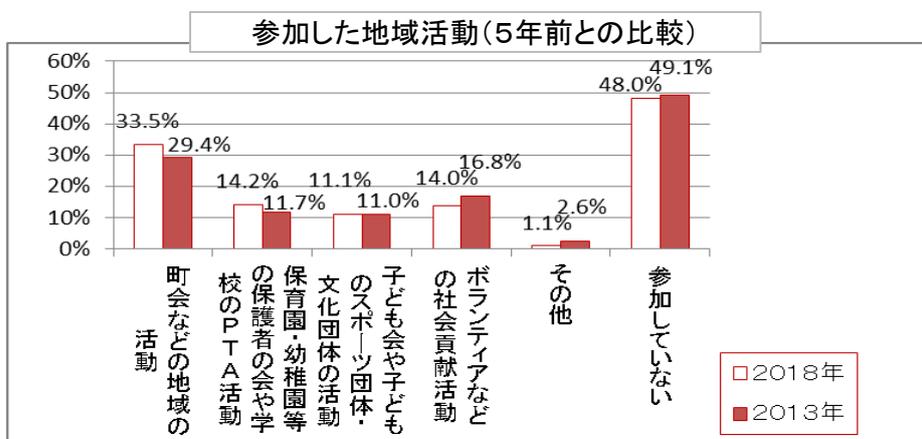
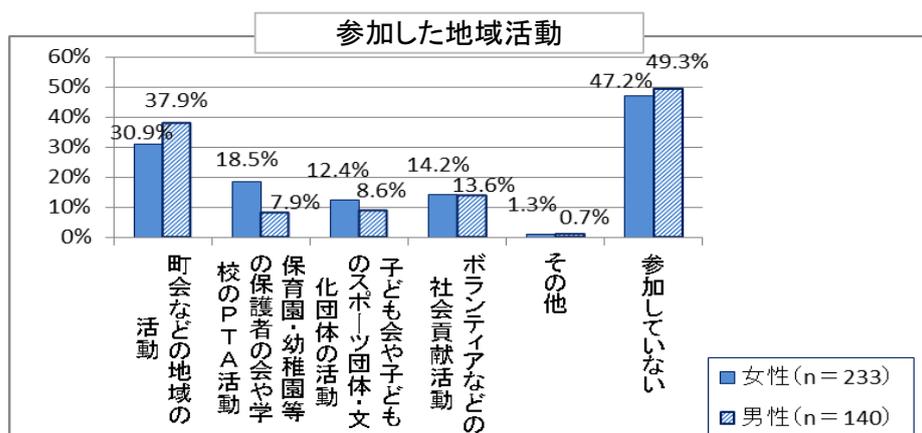
	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから	57.0%	62.7%	48.6%
男性になる方が良いという慣習があるから	39.8%	42.1%	37.1%
男性優位の組織運営になっているから	33.0%	33.0%	34.3%
女性側の積極性が十分でないから	26.6%	28.3%	23.6%
子どものときから女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ないから	13.2%	13.7%	12.1%
女性の社会的地位が低いから	14.5%	18.0%	9.3%
その他	4.2%	3.9%	5.0%
分からない	7.7%	5.6%	10.7%

会長職に女性が少ない理由について、最も多い回答は「家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから」で57.0%、次いで「男性になる方が良いという慣習があるから」で39.8%、「男性優位の組織運営になっているから」が33.0%となっています。

男女別に見ると、全体的に女性の方が男性よりもポイントが高くなっているなか、「男性優位の組織運営になっているから」は男性のポイントの方が高くなっています。

2013年の調査と比較すると、5ポイント以上の差があるのは「男性がなる方が良いという慣習があるから」と「男性優位の組織運営になっているから」で、ともに減少しています。

問9 この1年間のうち、あなたが参加した地域活動は何ですか。
(○は当てはまるものすべて)

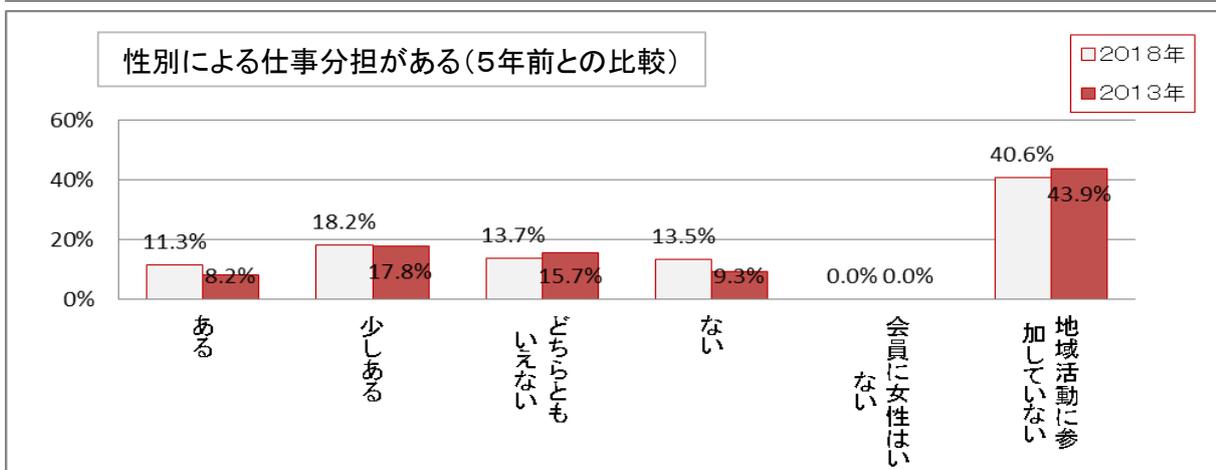
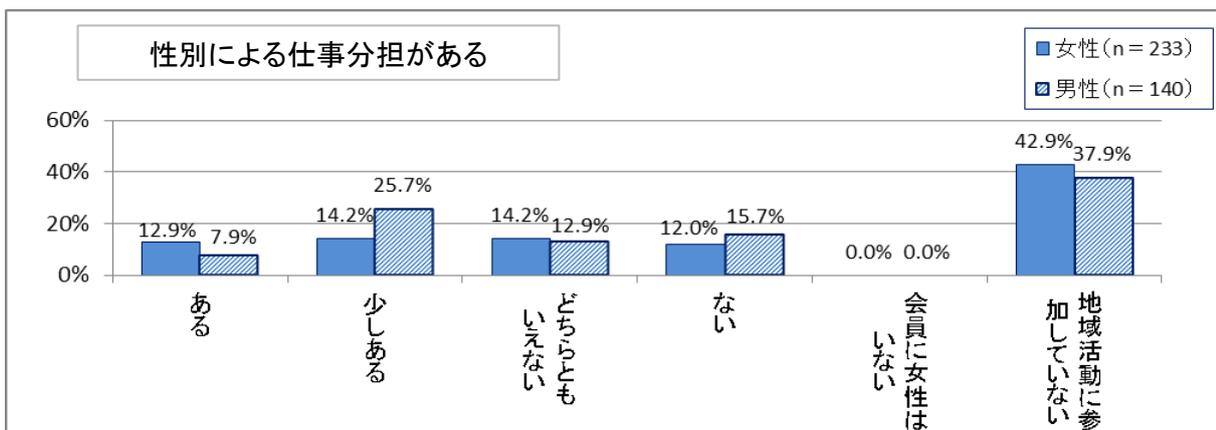


	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
町会などの地域の活動	33.5%	30.9%	37.9%
保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動	14.2%	18.5%	7.9%
子ども会や子どものスポーツ団体・文化団体の活動	11.1%	12.4%	8.6%
ボランティアなどの社会貢献活動	14.0%	14.2%	13.6%
その他	1.1%	1.3%	0.7%
参加していない	48.0%	47.2%	49.3%

地域活動については、「参加していない」が48.0%と最も多く、次いで「町会などの地域の活動」が33.5%、「保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動」が14.2%となりました。

参加したことの中で男女別に見ると、女性で最も多いのは「町会などの地域の活動」で30.9%、次に「保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動」が14.2%となりましたが、男性は「町会などの地域の活動」が37.9%、次いで「ボランティアなどの社会貢献活動」が13.6%となりました。

問10 あなたが参加している町会などの地域活動団体では「男性は中心的な仕事、女性は庶務や雑用」など性別によって仕事の分担がありますか。(〇は1つ)



	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
ある	11.3%	12.9%	7.9%
少しある	18.2%	14.2%	25.7%
どちらともいえない	13.7%	14.2%	12.9%
ない	13.5%	12.0%	15.7%
会員に女性はいない	0.0%	0.0%	0.0%
地域活動に参加していない	40.6%	42.9%	37.9%
無回答	2.6%	3.9%	0.0%

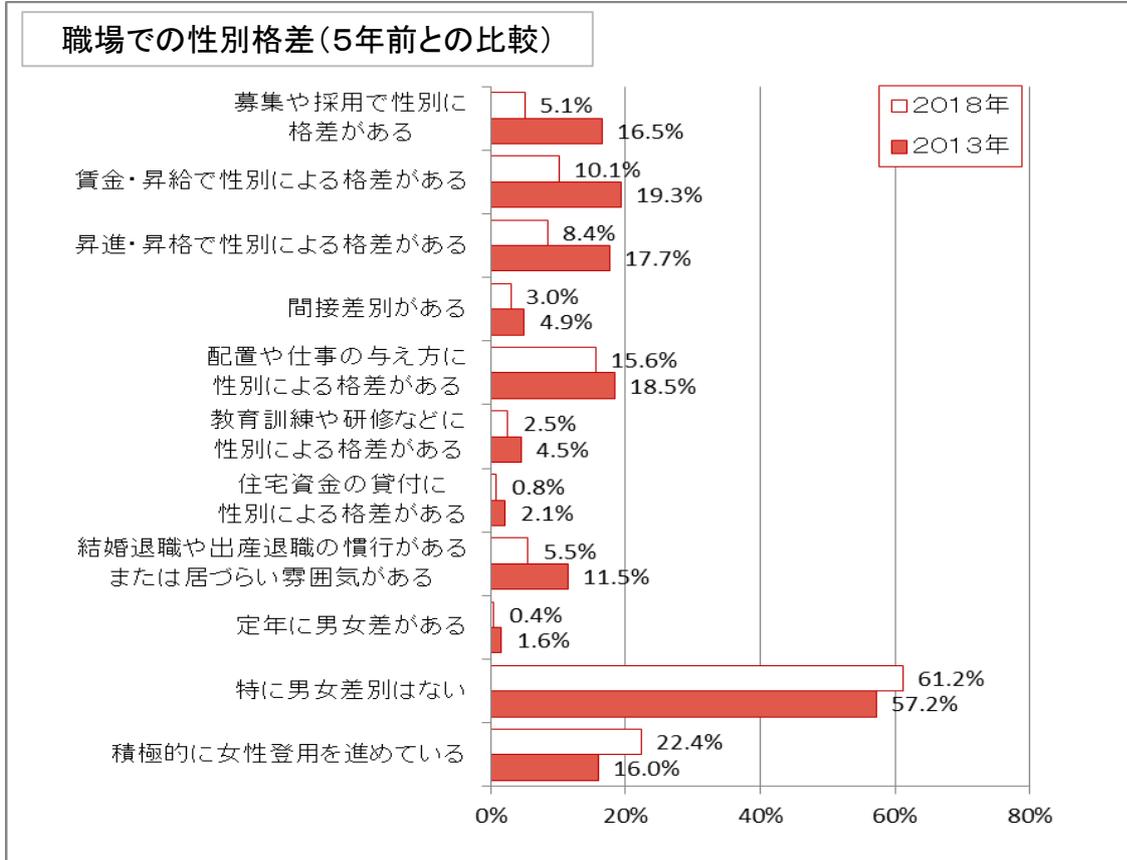
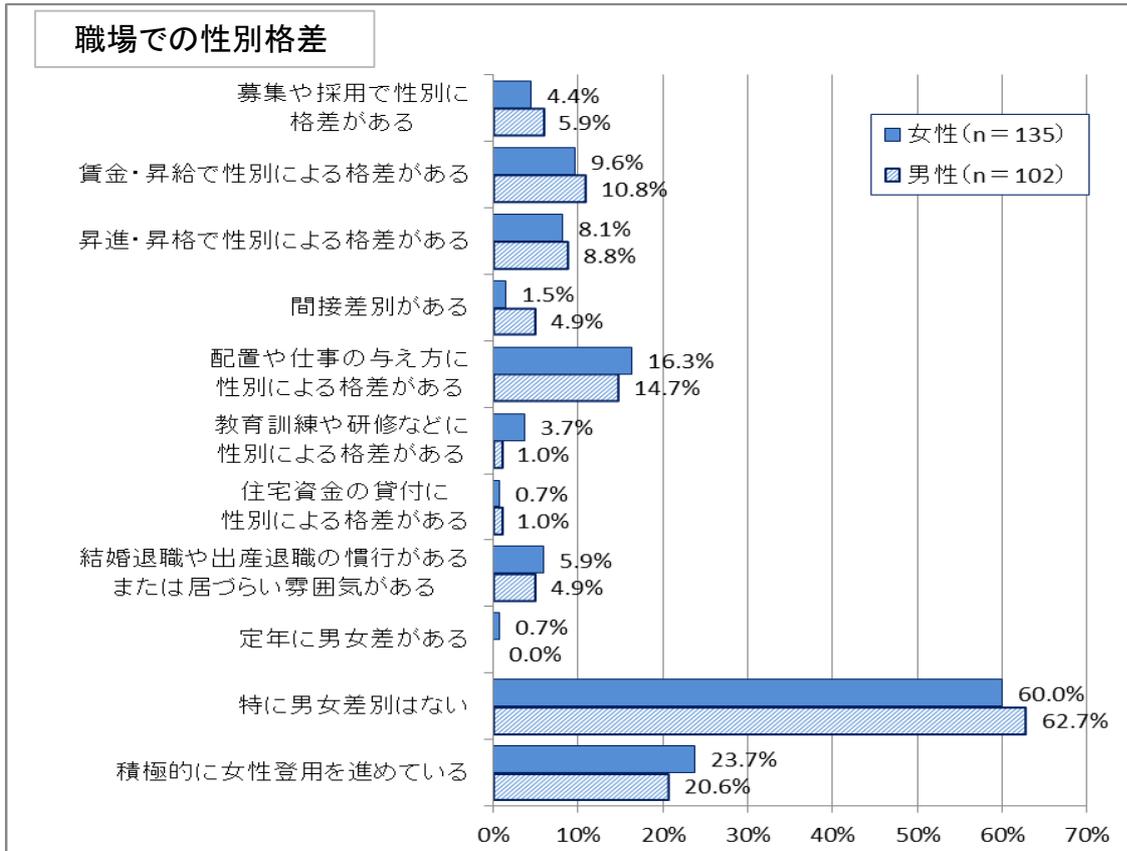
地域活動団体で性別による仕事分担があるか聞いたところ、「地域活動に参加していない」が40.6%と最も多く、次いで「少しある」が18.2%、「どちらともいえない」が13.7%となりました。

参加している人の中で、男女別で最も多かったのは、女性が「少しある」、「どちらともいえない」で14.2%、男性が「少しある」で25.7%でした。

2013年の調査と比較すると、「ある」と「少しある」を足した肯定派が26%から29.5%と3.5ポイント上昇していることから、性別による仕事分担は今でも根強く残っていることが分かります。

4 職場

問11 あなたの職場では、次にあげるようなことがありますか。(〇は当てはまるものすべて)



全体 (n=237) 女性 (n=135) 男性 (n=102)

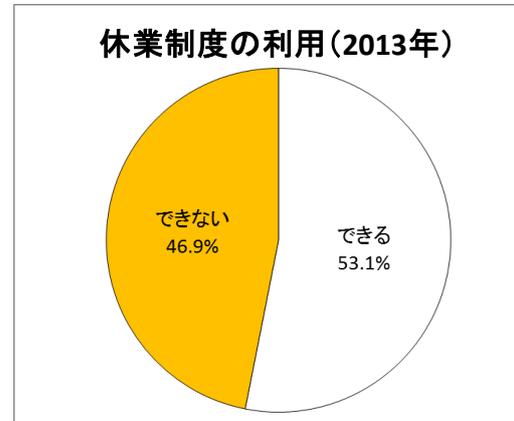
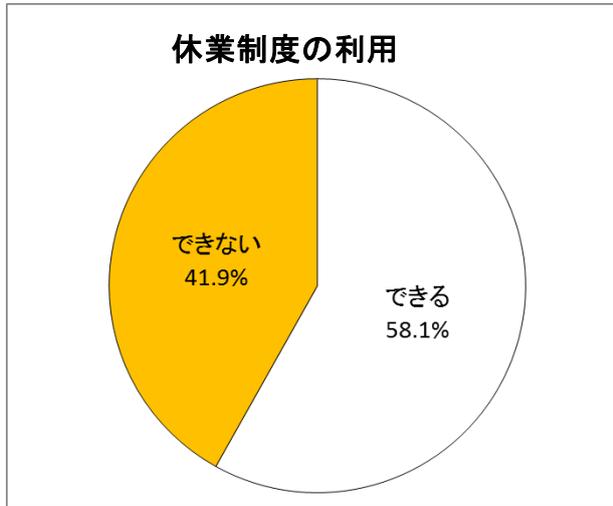
募集や採用で性別に格差がある	5.1%	4.4%	5.9%
賃金・昇給で性別による格差がある	10.1%	9.6%	10.8%
昇進・昇格で性別による格差がある	8.4%	8.1%	8.8%
間接差別がある	3.0%	1.5%	4.9%
配置や仕事の与え方に性別による格差がある（庶務は女性、企画は男性）	15.6%	16.3%	14.7%
教育訓練や研修などに性別による格差がある	2.5%	3.7%	1.0%
住宅資金の貸付に性別による格差がある	0.8%	0.7%	1.0%
結婚退職や出産退職の慣行があるまたは居づらい雰囲気がある	5.5%	5.9%	4.9%
定年に男女差がある	0.4%	0.7%	0.0%
特に男女差別はない	61.2%	60.0%	62.7%
積極的に女性登用を進めている	22.4%	23.7%	20.6%

職場での男女格差について聞いたところ、「特に男女差別はない」が最も多く61.2%、次いで「積極的に女性登用を進めている」が22.4%、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある（庶務は女性、企画は男性）」が15.6%でした。

男女別に見ても、「特に男女差別はない」が最も多く女性は60.0%、男性は62.7%で、次いで「積極的に女性登用を進めている」が女性は23.7%、男性は20.6%でした。

2013年の調査と比較すると、「特に男女差別はない」や「積極的に女性登用を進めている」が上昇し、その他の項目が全体的に減少していることから、職場での男女格差は減りつつあることが分かります。

問12 「現在あなたに、育児や介護が必要な家族がいた場合、育児や介護のための法律で定められた休業制度を利用できますか。（○は1つ）



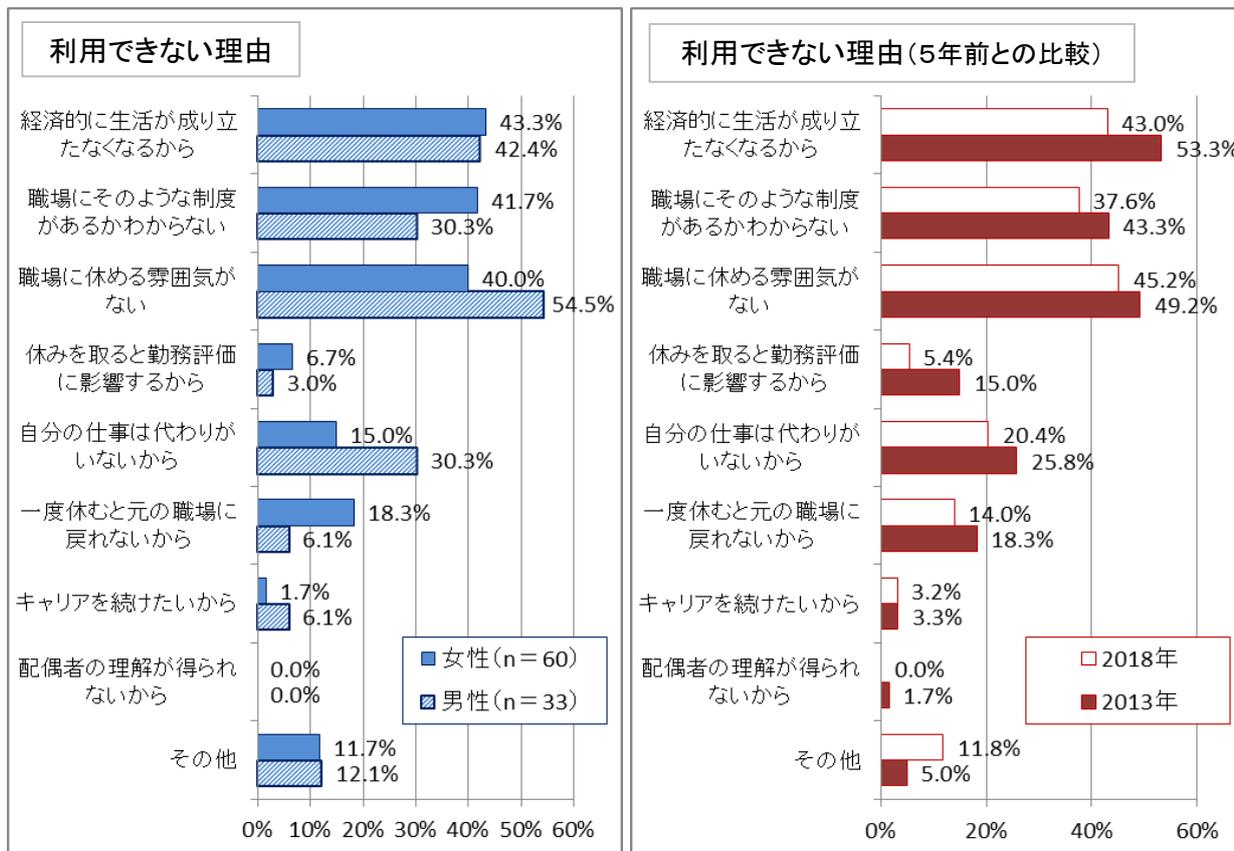
	全体 (n=237)	女性 (n=135)	男性 (n=102)
できる	58.1%	53.1%	64.9%
できない	41.9%	46.9%	35.1%

現在仕事をしている方に、育児休業や介護休業制度が利用できるか聞いたところ、全体で58.1%が「できる」、41.9%が「できない」との回答になりました。「利用できる」と答えた人を男女別で見ると、女性は53.1%、男性は64.9%となりました。

2013年の調査と比較すると「できる」と答えた人が53.1%から58.1%と5ポイント上がりました。

問12で「2. できない」と答え方

問12-1 長期の休業制度を利用することができないのは、どのような理由からでしょうか。



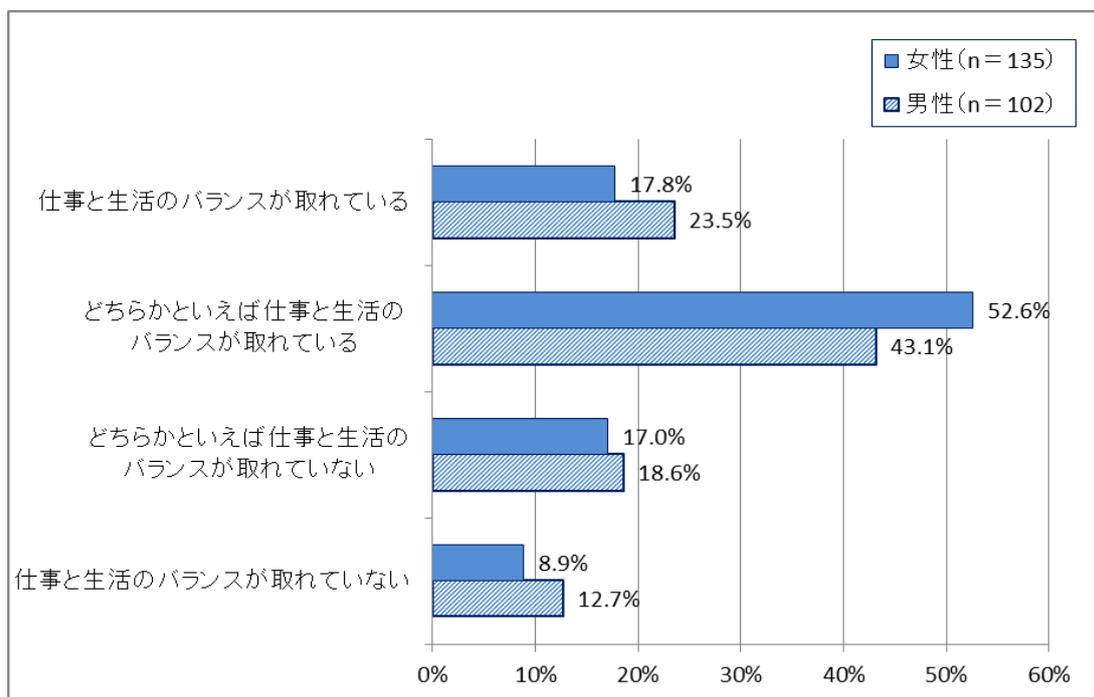
	全体 (n=93)	女性 (n=60)	男性 (n=33)
経済的に生活が成り立たなくなるから	43.0%	43.3%	42.4%
職場にそのような制度があるかわからない	37.6%	41.7%	30.3%
職場に休める雰囲気がない	45.2%	40.0%	54.5%
休みを取ると勤務評価に影響するから	5.4%	6.7%	3.0%
自分の仕事は代わりがないから	20.4%	15.0%	30.3%
一度休むと元の職場に戻れないから	14.0%	18.3%	6.1%
キャリアを続けたいから	3.2%	1.7%	6.1%
配偶者の理解が得られないから	0.0%	0.0%	0.0%
その他	11.8%	11.7%	12.1%

前問で「利用できない」と回答した人にその理由を尋ねると、「職場に休める雰囲気がない」が最も多く45.2%、次いで「経済的に生活が成り立たなくなるから」が43.0%、「職場にそのような制度があるかわからない」が37.6%となっています。

男女別で見ると、女性で最も多いのが「経済的に生活が成り立たなくなるから」で43.3%、男性では、「職場に休める雰囲気がない」で54.5%でした。また、男女差の大きい回答は、「一度休むと元の職場に戻れないから」が男性に対して女性が12.2ポイント高く、逆に「自分の仕事は代わりがないから」が女性に対して男性が15.3ポイント高い結果となりました。

2013年の調査と比較すると、全般的に前回よりポイントが低く、最も低下したのは「経済的に生活が成り立たなくなるから」で53.3%から43.0%と10.3ポイント低くなりました。

問13 あなたは、仕事と生活（家庭生活・地域活動）の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現できていますか。（〇は1つ）



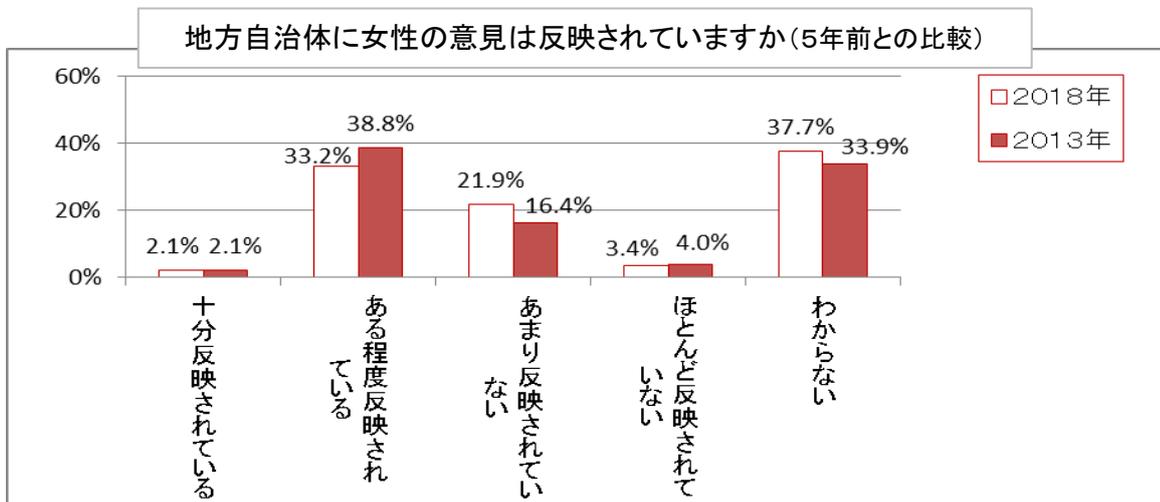
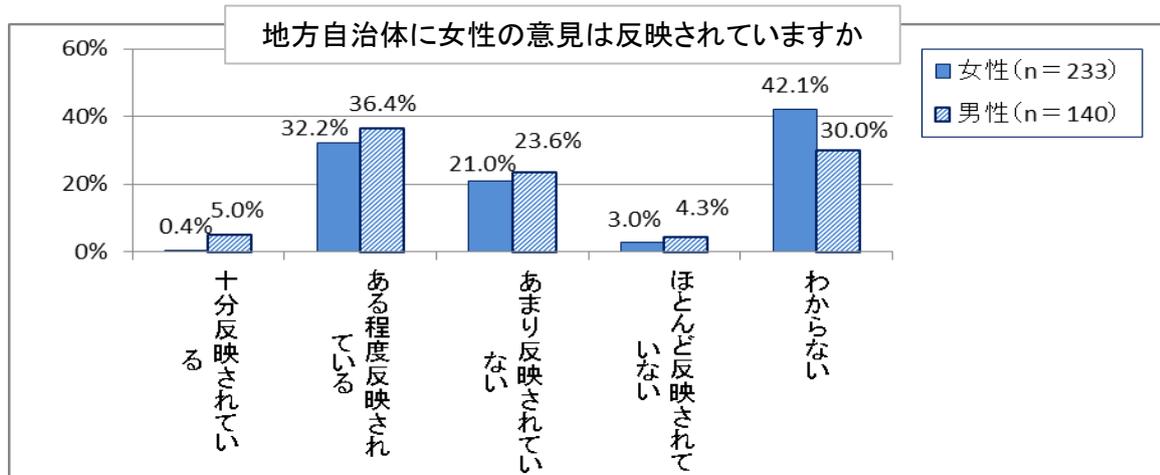
	全体 (n=237)	女性 (n=135)	男性 (n=102)
仕事と生活のバランスが取れている	20.3%	17.8%	23.5%
どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている	48.5%	52.6%	43.1%
どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れていない	17.7%	17.0%	18.6%
仕事と生活のバランスが取れていない	10.5%	8.9%	12.7%
無回答	3.0%	3.7%	2.0%

ワーク・ライフ・バランスの実現について聞いたところ、「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」が最も多く48.5%で、「仕事と生活のバランスが取れている」と答えた20.3%を足すと、68.8%が「バランスが取れている」と回答しました。

男女別で見ても、「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」と答えた人が女性で52.6%、男性で43.1%と最も多かったのですが、女性に対して、男性は「仕事と生活のバランスが取れている」と「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れていない」という人が5.4ポイント高い結果となりました。

5 社会参加

問14 あなたは、地方自治体（県や市）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（〇は1つ）



	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
十分に反映されている	2.1%	0.4%	5.0%
ある程度反映されている	33.2%	32.2%	36.4%
あまり反映されていない	21.9%	21.0%	23.6%
ほとんど反映されていない	3.4%	3.0%	4.3%
わからない	37.7%	42.1%	30.0%
無回答	1.6%	1.3%	0.7%

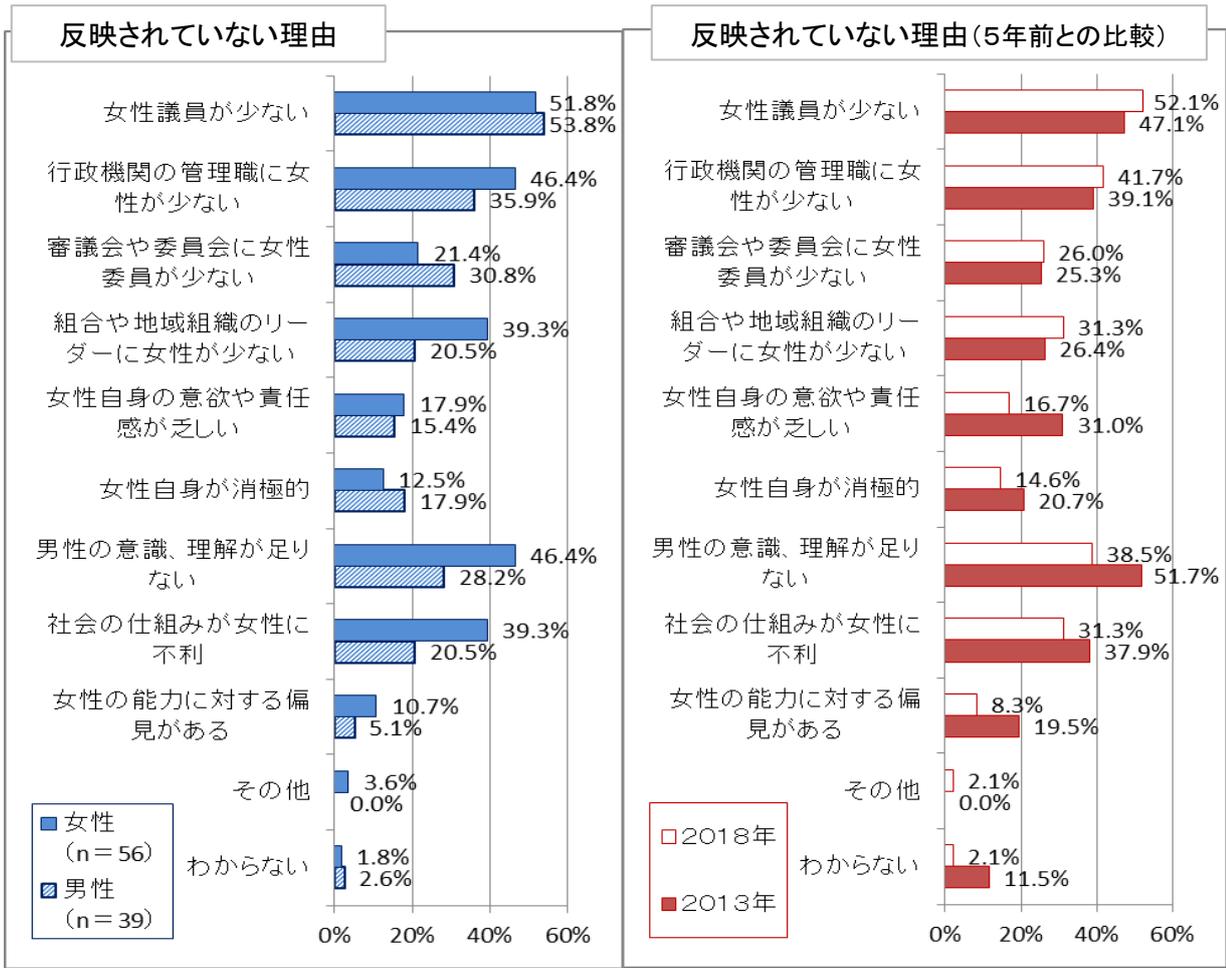
地方自治体の施策に女性の意見などが反映されているかについて、「わからない」が37.7%で最も多く、次いで「ある程度反映されている」が33.2%、「あまり反映されていない」が21.9%となっています。

男女別でみると女性は「わからない」の42.1%、男性は「ある程度反映されている」の36.4%が最も高くなっています。

2013年の調査と比較すると、「十分に反映されている」と「ある程度反映されている」を足した肯定派が2013年の40.9%から5.6%と5.6ポイント低くなっています。

問14で「3. あまり反映されていない」または「4. ほとんど反映されていない」と答えた方

問14-1 反映されていない理由は何だと思いますか（〇は3つまで）



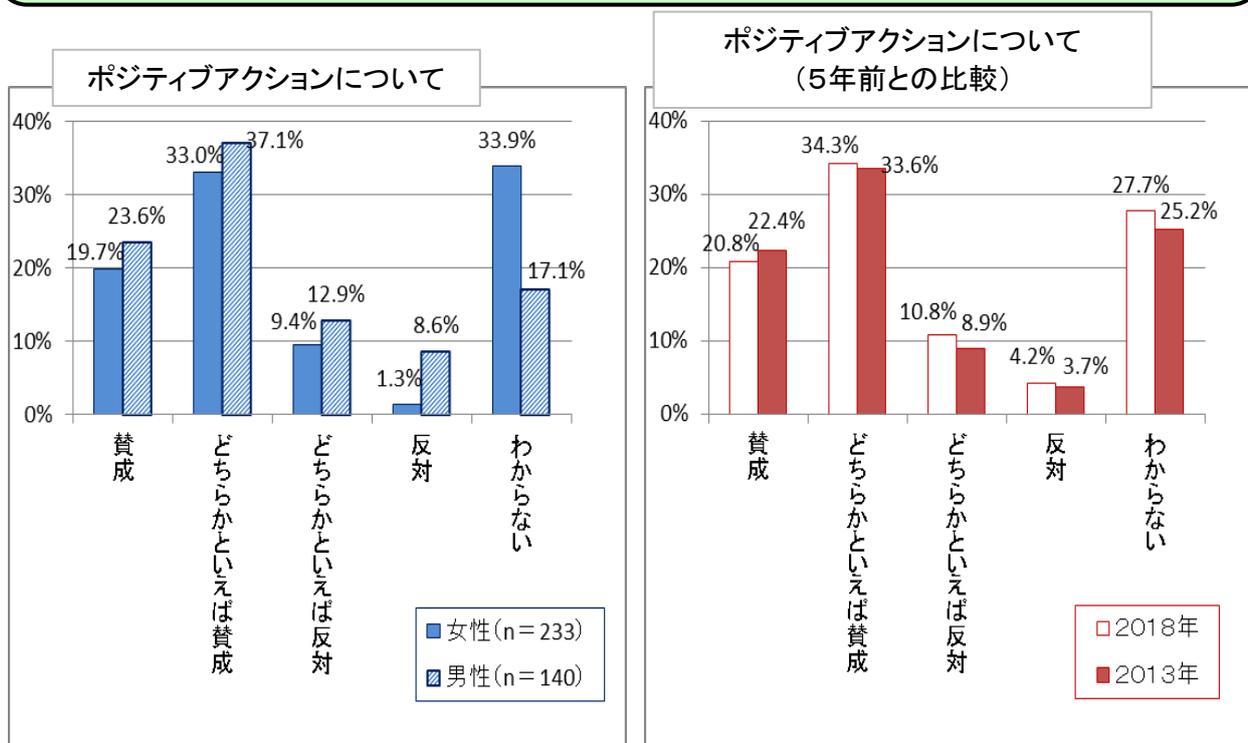
	全体 (n=96)	女性 (n=56)	男性 (n=39)
女性議員が少ない	52.1%	51.8%	53.8%
行政機関の管理職に女性が少ない	41.7%	46.4%	35.9%
審議会や委員会に女性委員が少ない	26.0%	21.4%	30.8%
組合や地域組織のリーダーに女性が少ない	31.3%	39.3%	20.5%
女性自身の意欲や責任感が乏しい	16.7%	17.9%	15.4%
女性自身が消極的	14.6%	12.5%	17.9%
男性の意識、理解が足りない	38.5%	46.4%	28.2%
社会の仕組みが女性に不利	31.3%	39.3%	20.5%
女性の能力に対する偏見がある	8.3%	10.7%	5.1%
その他	2.1%	3.6%	0.0%
わからない	2.1%	1.8%	2.6%

前問で「あまり反映されていない」、「ほとんど反映されていない」と答えた人に、その理由を尋ねると、「女性議員が少ない」が最も多く52.1%、次いで「行政機関の管理職に女性が少ない」が41.7%、「男性の意識、理解が足りない」が38.5%となっています。

男女別に見ても、「女性議員が少ない」が女性で51.8%、男性で53.8%と最も高く、男女差が最も高くなったのは、「組合や地域組織のリーダーに女性が少ない」と「社会の仕組みが女性に不利」で、18.8ポイントの開きがありました。

2013年の調査と比較すると、「女性自身の意欲や責任が乏しい」が31.0%から16.7%と14.3ポイント低下し、「男性の意識、理解が足りない」も51.7%から38.5%と13.2ポイント低下したのに対し、「女性議員が少ない」が47.1%から52.1%と5.0ポイント上昇したことから、女性の意見や考え方が反映されていない理由の捉え方に変化がみられていることが分かりました。

問15 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方があります。この考え方についてどのように思いますか。（〇は1つ）



	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
賛成	20.8%	19.7%	23.6%
どちらかといえば賛成	34.3%	33.0%	37.1%
どちらかといえば反対	10.8%	9.4%	12.9%
反対	4.2%	1.3%	8.6%
わからない	27.7%	33.9%	17.1%

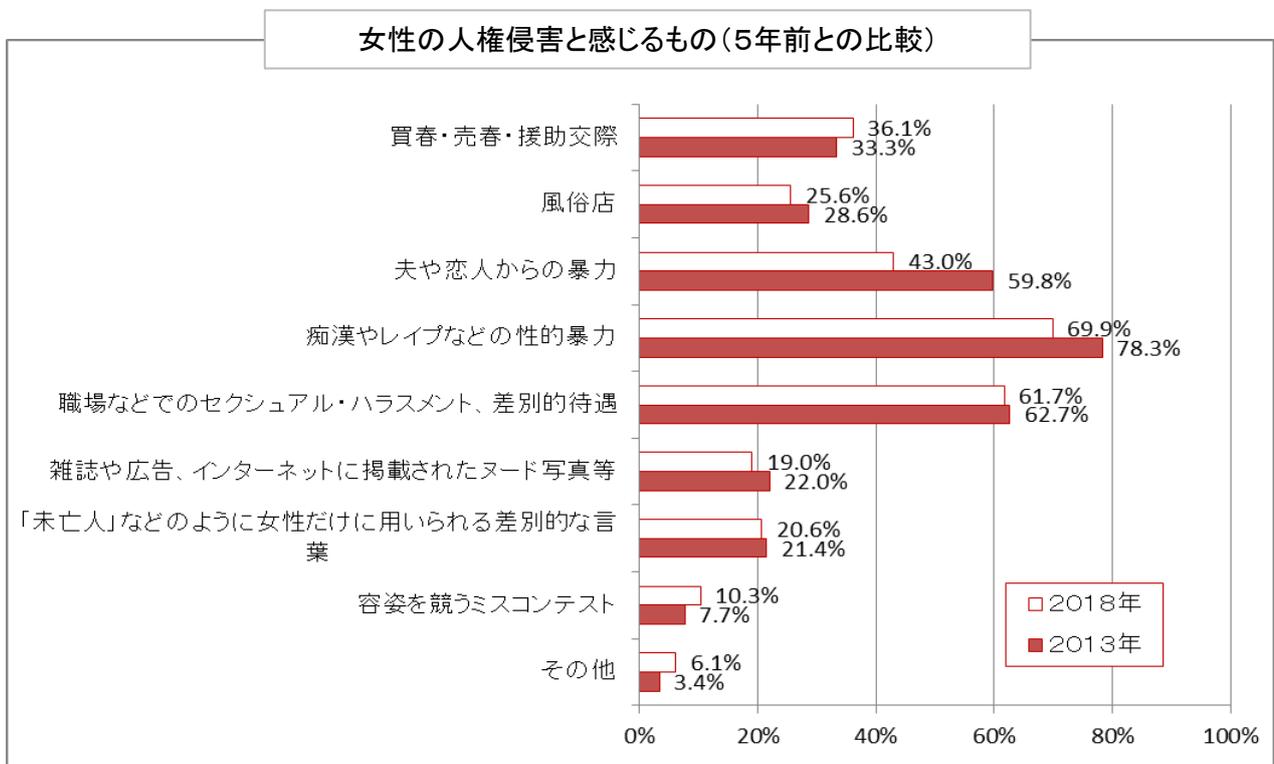
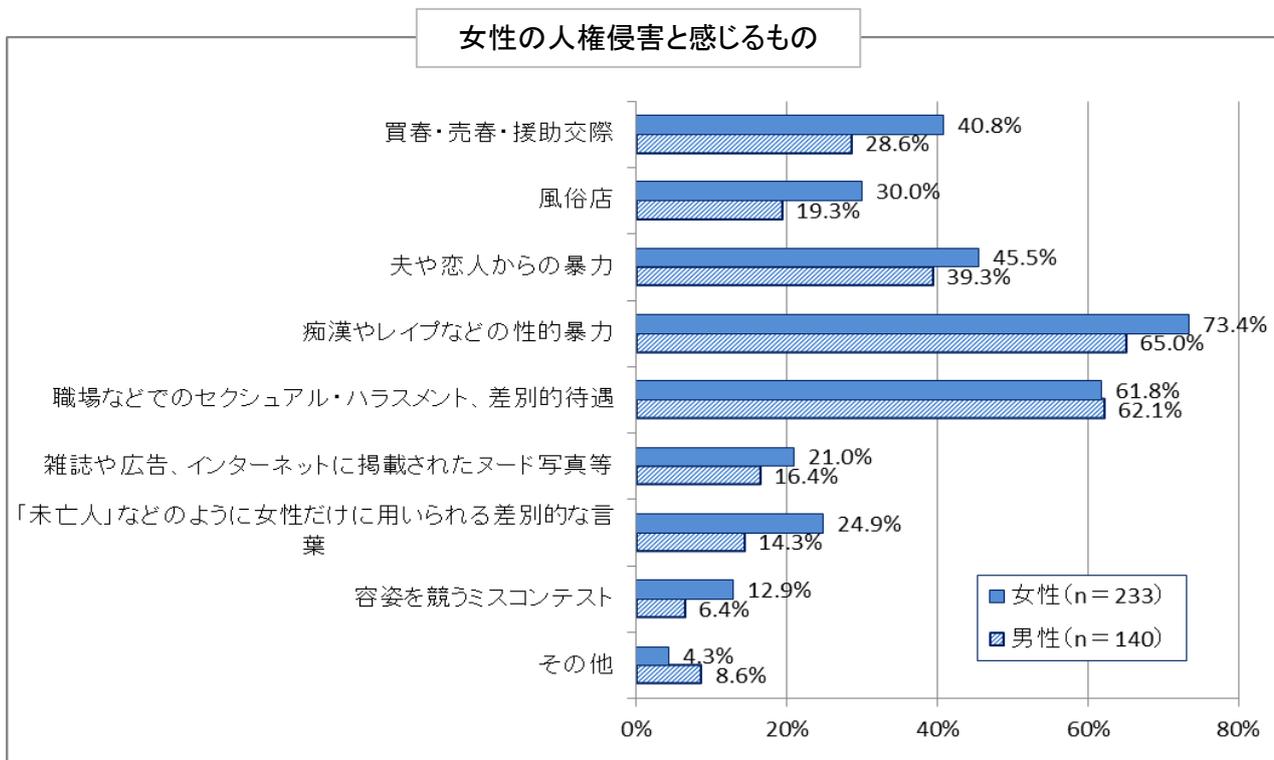
男女共同参画を進めるために、女性のあまりいない分野で積極的に女性を登用するポジティブアクション（積極的格差是正措置）について、「どちらかといえば賛成」が最も多く34.3%で、「賛成」の20.8%を加えると55.1%が肯定しています。

男女別で見ても、同じ傾向でしたが、「どちらかといえば反対」と「反対」を足した割合は、女性は10.7%に対し男性は21.5%と10.8ポイント開きがありました。

2013年の調査と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を足した割合は、56.0%から55.1%と0.9ポイント減少しました。

6 女性の人権

問16 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。
(○は当てはまるものすべて)



	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
買春・売春・援助交際	36.1%	40.8%	28.6%
風俗店	25.6%	30.0%	19.3%
夫や恋人からの暴力	43.0%	45.5%	39.3%
痴漢やレイプなどの性的暴力	69.9%	73.4%	65.0%
職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	61.7%	61.8%	62.1%
雑誌や広告、インターネットに掲載されたヌード写真等	19.0%	21.0%	16.4%
「未亡人」などのように女性だけに用いられる差別的な言葉	20.6%	24.9%	14.3%
容姿を競うミスコンテストなど	10.3%	12.9%	6.4%
その他	6.1%	4.3%	8.6%

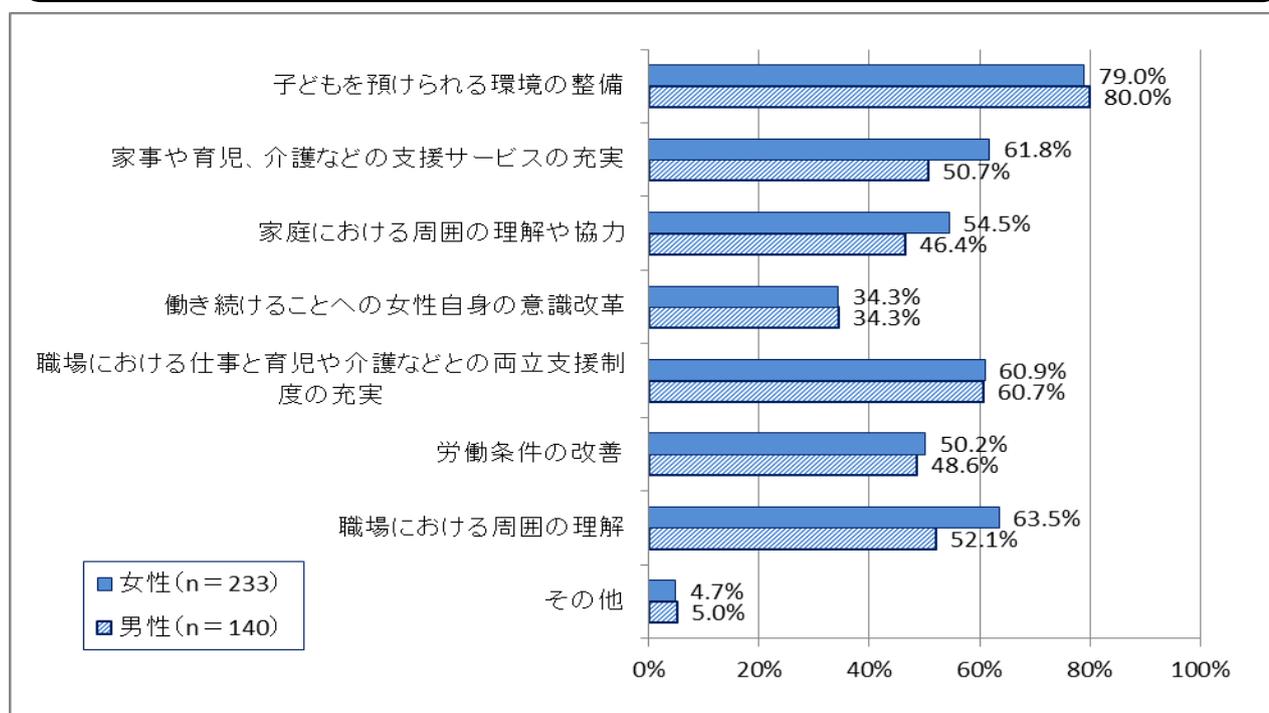
女性の人権が侵害されていると感じることについて、最も多かった回答は「痴漢やレイプなどの性的暴力」で69.9%、次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」で61.7%、「夫や恋人からの暴力」で43.0%となっています。

男女別でも同じ傾向で、男女で差があったのは「買春・売春・援助交際」で、女性が40.8%に対し、男性が28.6%と、12.2ポイントの開きがありました。

2013年の調査と比較すると、最も低下したのは「夫や恋人からの暴力」で59.8%から43.0%と16.8ポイント低くなりました。また、最も増加したのは「買春・売春・援助交際」で33.3%から36.1%と、2.8ポイント増加しました。

7 女性の活躍の推進

問17 女性が職業生活においてキャリアアップするためには、継続した就業が必要だと考えられます。出産後も働き続けるために、職場・家庭・社会において、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は当てはまるものすべて）

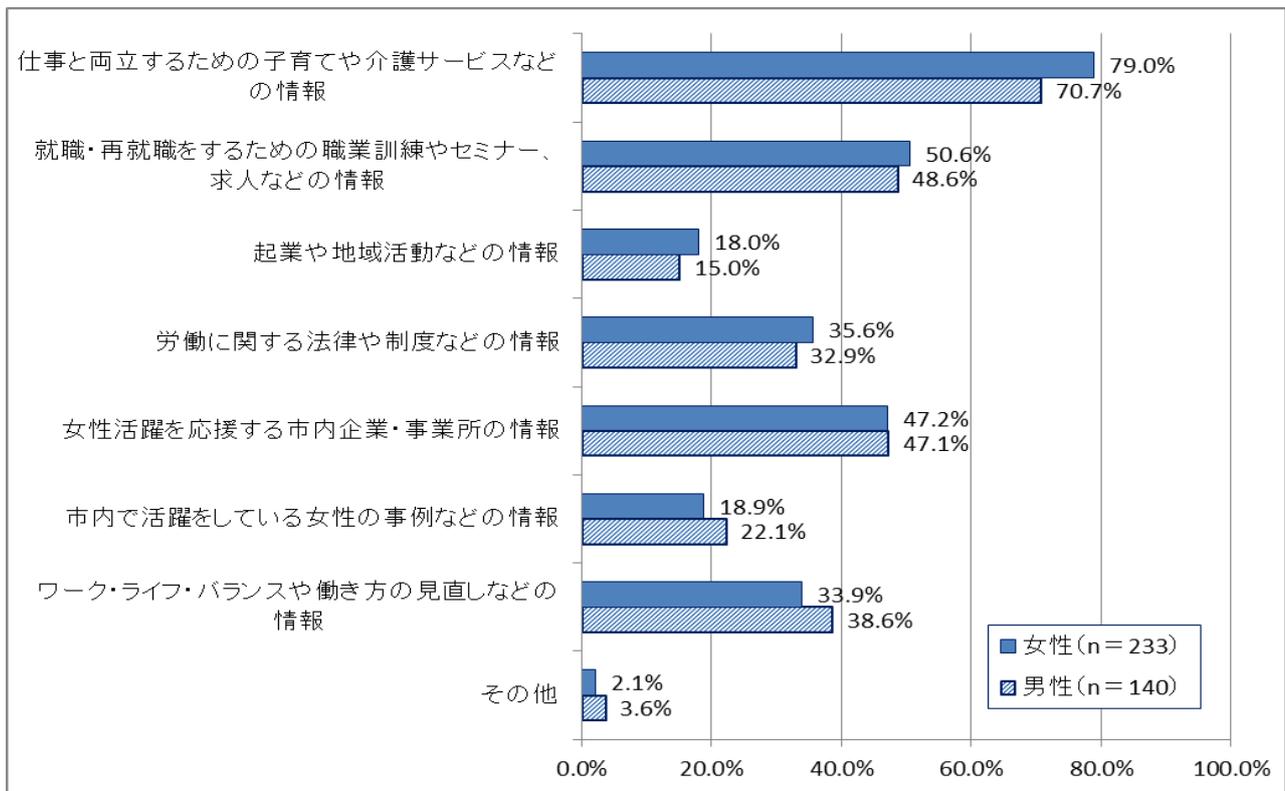


	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
子どもを預けられる環境の整備	78.9%	79.0%	80.0%
家事や育児、介護などの支援サービスの充実	57.5%	61.8%	50.7%
家庭における周囲の理解や協力	50.9%	54.5%	46.4%
働き続けることへの女性自身の意識改革	34.6%	34.3%	34.3%
職場における仕事と育児や介護などとの両立支援制度の充実	60.4%	60.9%	60.7%
労働条件の改善	49.1%	50.2%	48.6%
職場における周囲の理解	58.3%	63.5%	52.1%
その他	5.0%	4.7%	5.0%

出産後も働き続けるために、職場・家庭・社会において、どのようなことが必要と考えるかについて聞いたところ、最も多かったのが「子どもを預けられる環境の整備」で78.9%、次いで「職場における仕事と育児や介護などとの両立支援制度の充実」が60.4%となっています。

男女別で最も差があったのは「職場における周囲の理解」で、女性が63.5%に対し、男性は52.1%と11.4ポイントの開きがありました。

問18 職業生活における女性の活躍を進めるために、今後どのような情報が必要だと思いますか。（〇は当てはまるものすべて）



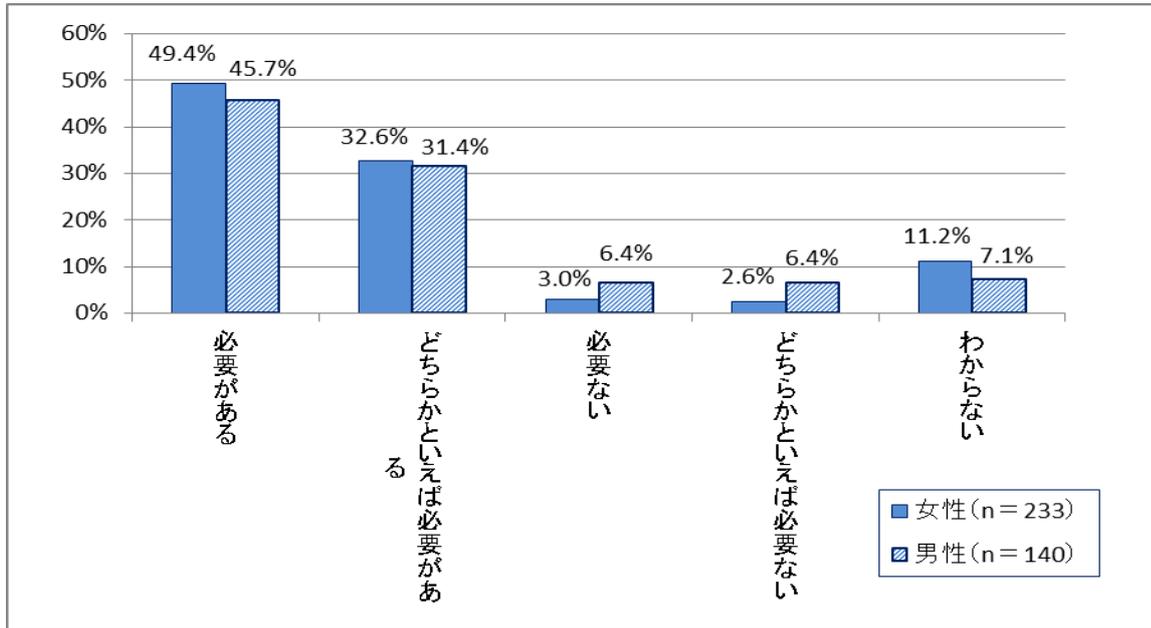
	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
仕事と両立するための子育てや介護サービスなどの情報	75.2%	79.0%	70.7%
就職・再就職をするための職業訓練やセミナー、求人などの情報	49.6%	50.6%	48.6%
起業や地域活動などの情報	16.6%	18.0%	15.0%
労働に関する法律や制度などの情報	34.3%	35.6%	32.9%
女性活躍を応援する市内企業・事業所の情報	46.7%	47.2%	47.1%
市内で活躍をしている女性の事例などの情報	19.8%	18.9%	22.1%
ワーク・ライフ・バランスや働き方の見直しなどの情報	35.1%	33.9%	38.6%
その他	2.6%	2.1%	3.6%

職業生活における女性の活躍を進めるために必要な情報についてお聞きしたところ、「仕事と両立するための子育てや介護サービスなどの情報」が75.2%で最も多く、次いで「就職・再就職をするための職業訓練やセミナー、求人などの情報」が49.6%、「女性活躍を応援する市内企業・事業所の情報」が46.7%でした。

男女別で見ても、「仕事と両立するための子育てや介護サービスなどの情報」と答えた人が女性で79.0%、男性で70.7%と最も多くなりました。また、「市内で活躍をしている女性の事例などの情報」と「ワーク・ライフ・バランスや働き方の見直しなどの情報」については男性が女性のポイントを上回りました。

8 防災

問19 あなたは、防災・災害復興対策で、男女の性別に配慮した対応が必要だと思いますか。(〇は1つ)



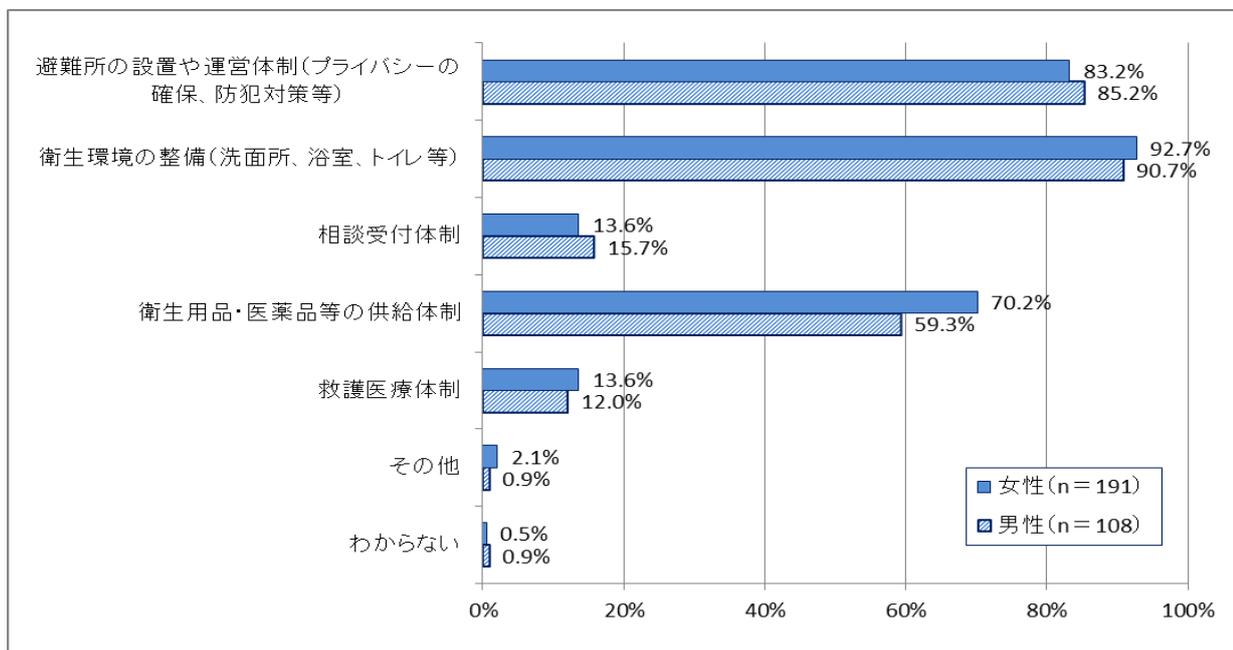
	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
必要がある	47.2%	49.4%	45.7%
どちらかといえば必要がある	32.5%	32.6%	31.4%
必要ない	4.2%	3.0%	6.4%
どちらかといえば必要ない	4.0%	2.6%	6.4%
わからない	9.8%	11.2%	7.1%

防災・災害復興対策で、男女の性別に配慮した対応が必要かについて、「必要がある」が47.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば必要がある」が32.5%、「わからない」が9.8%となっています。

男女別でも「必要がある」が女性で49.4%、男性で45.7%と最も高くなっていますが、「必要ない」と「どちらかといえば必要ない」を足したポイントを見ると、男性が女性を7.2ポイント上回っています。

問19で「1. 必要がある」または「2. どちらかといえば必要がある」と答えた方

問19-1 防災・災害復興対策で、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何だと思いますか。（〇は3つまで）



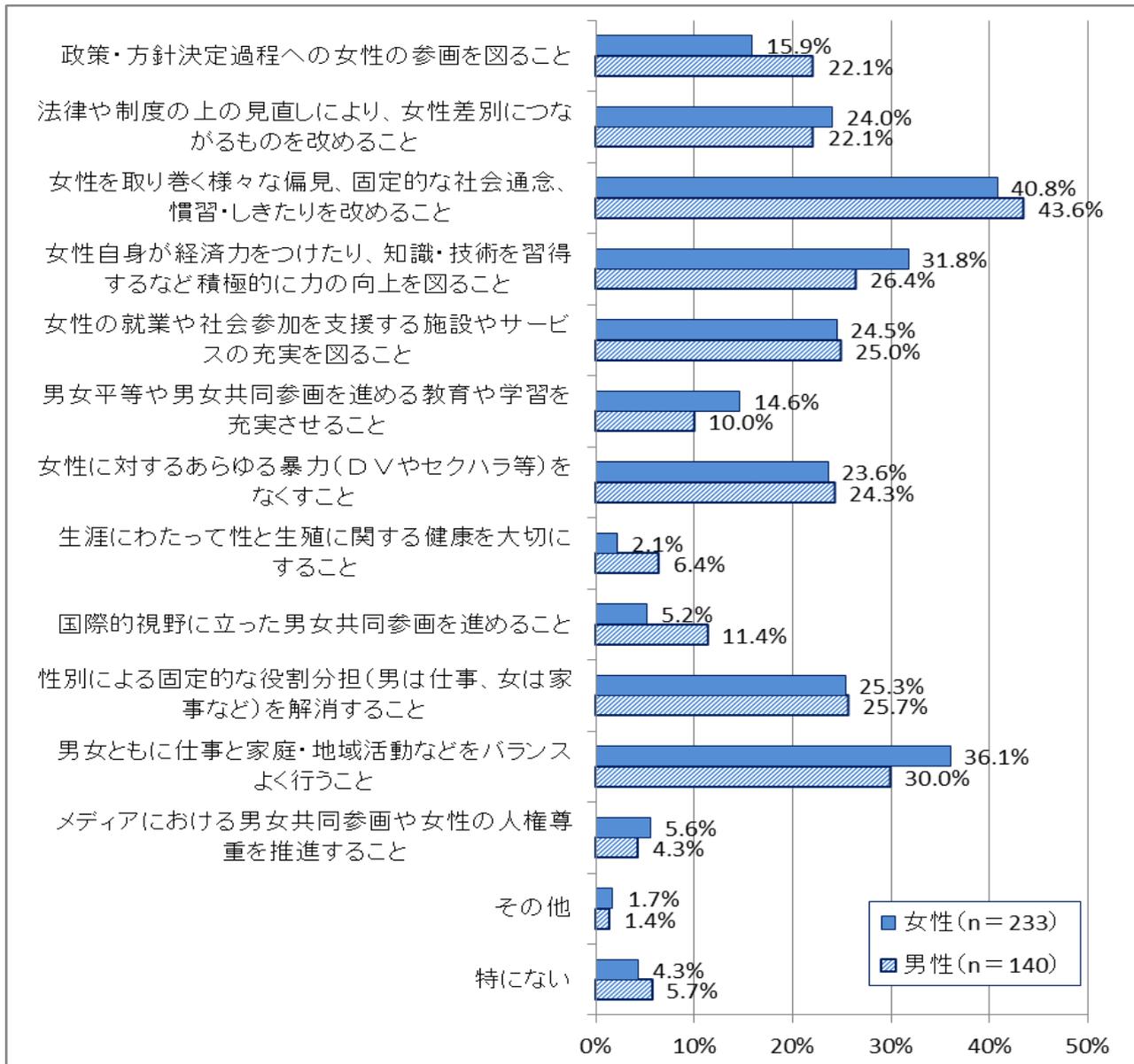
	全体 (n=302)	女性 (n=191)	男性 (n=108)
避難所の設置や運営体制 (プライバシーの確保、防犯対策等)	83.8%	83.2%	85.2%
衛生環境の整備 (洗面所、浴室、トイレ等)	92.1%	92.7%	90.7%
相談受付体制	14.6%	13.6%	15.7%
衛生用品・医薬品等の供給体制	65.9%	70.2%	59.3%
救護医療体制	13.2%	13.6%	12.0%
その他	1.7%	2.1%	0.9%
わからない	0.7%	0.5%	0.9%

前問で「必要がある」、「どちらかといえば必要がある」と答えた人に、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思う対策を尋ねると、「衛生環境の整備 (洗面所、浴室、トイレ等)」が最も多く92.1%、次いで「避難所の設置や運営体制 (プライバシーの確保、防犯対策等)」が83.8%、「衛生用品・医薬品等の供給体制」が65.9%となりました。

男女別に見ても、「衛生環境の整備 (洗面所、浴室、トイレ等)」が女性で92.7%、男性で90.7%と最も高く、男女差があったのは、「衛生用品・医薬品等の供給体制」で、女性が70.2%に対し男性は59.3%と、10.9ポイントの開きがありました。

9 男女共同参画の取組

問20 男女が平等でともに参画する社会の実現のために、あなたが特に重要と思うことは何ですか。（〇は3つまで）

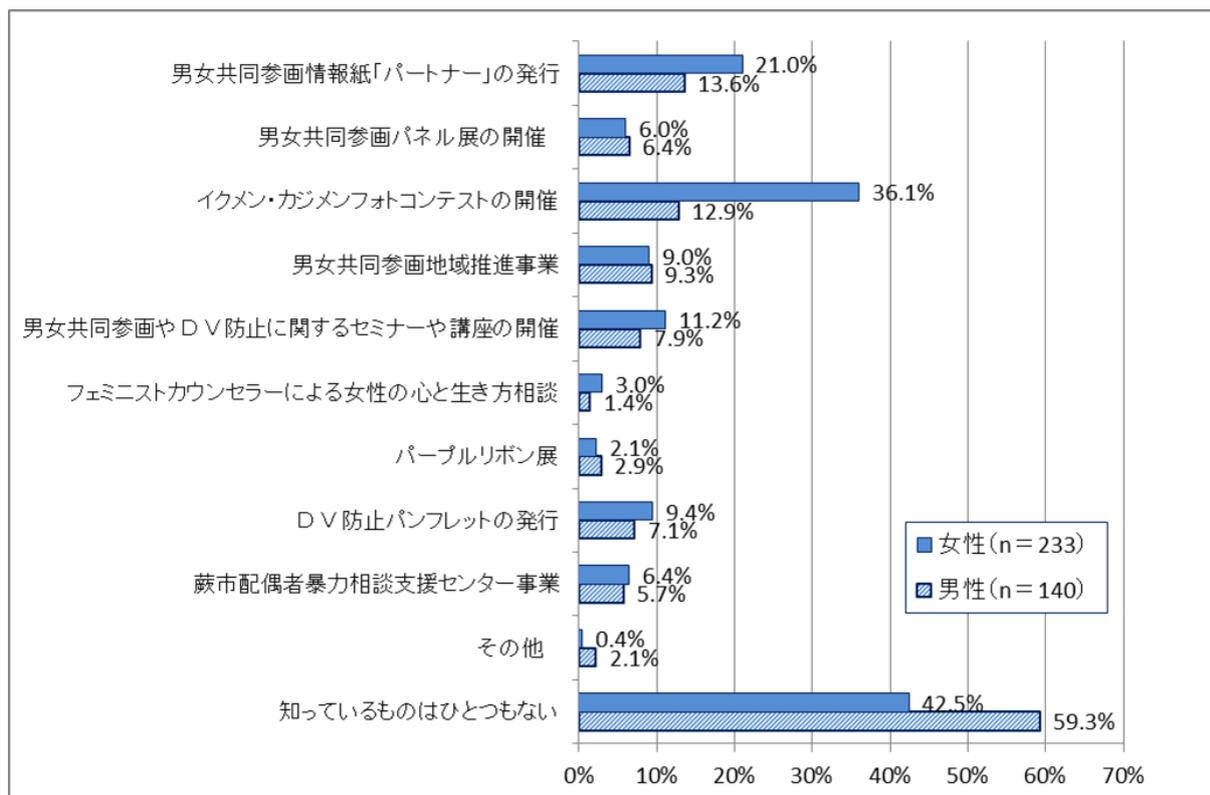


	全体 (n=379)	女性 (n=233)	男性 (n=140)
政策・方針決定過程への女性の参画を図ること	17.9%	15.9%	22.1%
法律や制度の上の見直しにより、女性差別につながるものを改めること	23.2%	24.0%	22.1%
女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	41.2%	40.8%	43.6%
女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に力の向上を図ること	29.6%	31.8%	26.4%
女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	24.3%	24.5%	25.0%
男女平等や男女共同参画を進める教育や学習を充実させること	12.9%	14.6%	10.0%
女性に対するあらゆる暴力（DVやセクハラ等）をなくすこと	23.5%	23.6%	24.3%
生涯にわたって性と生殖に関する健康を大切にすること	3.7%	2.1%	6.4%
国際的視野に立った男女共同参画を進めること	7.4%	5.2%	11.4%
性別による固定的な役割分担（男は仕事、女は家事など）を解消すること	25.1%	25.3%	25.7%
男女ともに仕事と家庭・地域活動などをバランスよく行うこと	33.5%	36.1%	30.0%
メディアにおける男女共同参画や女性の人権尊重を推進すること	5.0%	5.6%	4.3%
その他	1.6%	1.7%	1.4%
特になし	5.0%	4.3%	5.7%

男女共同参画社会の実現に向けて重要と思うことについて、最も多かったのが「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」で41.2%、次いで「男女ともに仕事と家庭・地域活動などをバランスよく行うこと」が33.5%、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に力の向上を図ること」が29.6%となっています。

男女別で最も差があったのは「政策・方針決定過程への女性の参画を図ること」で、男性が22.1%に対し、女性は15.9%と6.2ポイントの開きがありました。

問21 蕨市が行っている男女共同参画を推進する事業のうち、知っているものは何ですか。
(〇は当てはまるものすべて)



事業名	女性 (n=233)	男性 (n=140)
男女共同参画情報紙「パートナー」の発行	17.9%	13.6%
男女共同参画パネル展の開催	6.1%	6.4%
イクメン・カジメンフォトコンテストの開催	26.9%	12.9%
男女共同参画地域推進事業	9.0%	9.3%
男女共同参画やDV防止に関するセミナーや講座の開催	9.8%	7.9%
フェミニストカウンセラーによる女性の心と生き方相談	2.4%	1.4%
パープルリボン展	2.4%	2.9%
DV防止パンフレットの発行	8.4%	7.1%
蕨市配偶者暴力相談支援センター事業	6.1%	5.7%
その他	1.1%	2.1%
知っているものはひとつもない	48.8%	59.3%

蕨市が行っている男女共同参画推進事業についてお聞きしたところ、「知っているものはひとつもない」が48.8%で最も多く、次いで「イクメン・カジメンフォトコンテストの開催」が26.9%、「男女共同参画情報誌『パートナー』の発行」が17.9%でした。

「イクメン・カジメンフォトコンテストの開催」は女性が36.1%に対し男性が12.9%と、23.2%の開きがあり、また59.3ポイントと約6割の男性が「知っているものはひとつもない」を選択していることから、特に男性への周知が課題であることがうかがえました。

10 回答者の属性

(1) 地区

	件数	%
錦町	52	13.7%
北町	57	15.0%
中央	112	29.6%
南町	65	17.2%
塚越	87	23.0%
無回答	6	1.6%
合計	379	100.0%

(2) 性別

	件数	%
女	233	61.5%
男	140	36.9%
無回答	6	1.6%
合計	379	100.0%

(3) 年齢層

	件数	%
18～19歳	8	2.1%
20～29歳	34	9.0%
30～39歳	55	14.5%
40～49歳	66	17.4%
50～59歳	63	16.6%
60～69歳	60	15.8%
70歳以上	90	23.7%
無回答	3	0.8%
合計	379	100.0%

(4) 職業

	件数	%
経営者・役員 (自営業含む)	30	7.9%
正社員・正職員	106	28.0%
派遣社員	3	0.8%
パート・アルバイト 契約社員・嘱託など	88	23.2%
学生	9	2.4%
専業主婦(主夫)	53	14.0%
その他	10	2.6%
無職	75	19.8%
無回答	5	1.3%
合計	379	100.0%

(5) 同居の家族 (複数回答)

	件数	%
本人のみ	55	14.5%
配偶者	239	63.1%
子ども	167	44.1%
孫	10	2.6%
父母	58	15.3%
祖父母	7	1.8%
兄弟・姉妹	27	7.1%
その他	11	2.9%
無回答	3	0.8%
合計	577	



蕨市男女共同参画市民意識調査結果報告書

発行 平成31年3月

蕨市中央5-14-15
蕨市市民生活部市民活動推進室

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

メール siminsit@city.warabi.saitama.jp